

温故「第十六号」

## 江寄滞留中日裁

翠園和



温故十六号をお届けします。

元治元年（一八六四）七月、京都御所の警衛を巡り禁門の変が起こり、会津薩摩連合軍と一戦を交えた長州軍は大敗を喫し長州へ帰国します。長州藩では恭順派が実権を握り三家老は藩主への拜謁も許されず、親施は大道村に滞在した後、八月初旬には領邑須佐において謹慎蟄居、更に第一次長州征伐の風説を受け支藩徳山へ幽囚後、十一月に幕府への謝罪として徳山惣持院で切腹を命じられます。その後、長州藩内は高杉晋作の活躍により恭順派に替わって急進派が実権を握り藩論は倒幕に向けて加速していきます。

須佐では家臣大谷樸助らによって主君親施を救うため十六名が同盟を結び邑政堂に陳情するも、主君の身の安全は保障されているなどと欺かれ、その直後に突然、主君の切迫とほぼ同時に訃報を受け邑は騒然とします。葬儀執行後は首級の帰邑に双方が東奔西走の尽力をします。樸助は殉死を邑政堂（益田館内の政治堂）に訴えるが許されず、断髪して毎日の墳墓参詣を日課としましたが、この行為が邑政堂の自説する恭順主義に背く運動として謹慎を命じられます。

翌二年正月、諸隊の三家老の免罪を雪ぐ義拳に賛同して樸助ら九名は脱走します。二月に九名は一旦須佐邑に帰り邑中の正義を回復し亡君の意志を継いで実行する方針を定めたうえで、大道村において有志を募り二十七名を率いて山口に帰ります。数日して樸助を総督とした三十六名が再び帰邑して心光寺に立て籠もり回天軍を組織します。その後、藩内は鎮静し他の隊同様に回天軍にも分散の命令があるも回天軍はこれを受け入れず継続を歎願し、須佐の内訌事件に発展します。邑政堂は石州口の防御等の口実を設け回天軍に対抗して北強団を組織し、種々の画策を以て徐々に回天軍を壊滅に追い込み、終に樸助ら回天軍首謀者は邑政堂官吏の意見を寵遇した仙相院君（親施母堂）の逆鱗に触れ切腹や禁錮が命じられます。

【表紙説明】「御国廻り御行程記」萩藩主の御国廻りは初代秀就から六代宗広まで実施されている。表紙の「御国廻り御行程記」は宗広の御国廻りに際し寛保二年（1791）に作成されたもので、萩藩絵図方馬喜惣太が携わった。「絵で見る防長の町と村」より平成元年山口県文書館（

主君の意志を継ぐことに正義を唱えた回天軍、益田家存続に躍起になった邑政堂、時勢が恭順に傾いていた中で彼らをとった行動は、何れも益田家の為を思っていることであることは想像できます。この内訌事件に関わった恭順派の人達が後に罪に

問われ、領外住居や遠島を命じられています。

今回は事件後に領外住居を命じられた益田二郎左衛門(益田家重臣 清水益田家)の日記「江崎滞留中日裁」を資料としました。期間中の出来事が詳細に遺され、当時の生活状況を窺い知ることができません。

本文書は難解な文字が多く判読にかなりの時間を費やしました。何度も繰り返し読み、読むたびに判読に迷う所、異なった読みをする所が多々あり誤判読の所は沢山あると思いますが、各位で訂正をしていただければ幸いです。

なお、判読にご協力いただきました東京須佐史談会 須佐古文書を読む会の皆様には格別のご協力を賜り、おかげをもちまして発行の運びとなりました。特に東京須佐史談会の皆様には再三にわたり判読・校正作業にお力添えをいただきました。厚く御礼申し上げます。

二〇〇二年六月

須佐郷土史研究会

## 凡例

漢字は可能な限り原文を記載する。但し異体字や古体字・ウープロにない字は現行の字に改め、あきらかな誤字は釈文例において訂正した。

者・江・茂・而・与等の助詞は小文字を使用するが、ウープロでは右寄せ機能がなかったため左寄せとした。【注】複製に当たっては小文字を使用しない。

闕字は一字あけとした。

判読不能・虫食い等については とするが、あきらかな場合又は欠字の場合は 廻 のようにした。

便宜上、返り点及び読点を付すが、誤記の場合は訂正をお願いする。【注】複製に当たり返り点は省略した。

表紙は山口県文書館の許可を得て「絵図で見る防長の町と村」(江崎)を利用させていただいた。

## 資料提供

江崎滞留中日裁(須佐町伊藤清久氏)

## 参考文献

用字用語古文書の読み方(柏書房)

実例古文書判読入門(名著出版)

実例古文書判読演習(名著出版)

江崎滞留中日裁

夏目私

慶応元年乙丑(1865)十月

## 【1頁】

爰元滞留中 出火之節之人當<sup>せしめ</sup>テ置不申而八不相濟候二付、三原村庄屋

田村利作 爰元罷越候二付、江津村より萬一之節、驅込人當<sup>せしめ</sup>テ之儀相頼候處、

利作受相罷歸、早速沙汰せしめ候由二而江崎より一番手近二居候  
由二而左之両人之者一應参り、非常二不限御用之節八被仰付候様と  
申参り候二付、酒吞せ差かへし候事、

市蔵

惣十郎

【2頁】

慶心元乙丑十月

一、三郎左衛門致和事、役中之儀二付、此度不<sup>ふと</sup>圖<sup>と</sup>蒙<sup>まか</sup>鑓<sup>くわ</sup>責<sup>せ</sup>御領外住居  
仕候様との儀二付、早速より居所及詮義候<sup>議</sup>共、火急二是<sup>これこそ</sup>社<sup>と</sup>と申心當りも  
無之、先ツ江崎共二候<sup>者</sup>須<sup>は</sup>佐江之便りも宜敷、第一、三郎左衛門事、近来  
氣分相二付而者 醫師罷居候所江住居仕度旁江崎可然、大谷六郎左衛門  
大谷官一 郎兼而別懇出入家之事二候<sup>ハ</sup>彼<sup>ノ</sup>之<sup>者</sup>等<sup>ノ</sup>心遣を以 江崎辺二借  
宅せしめ候 處柄共<sup>ハ</sup>有<sup>之</sup>間敷哉と三谷丈七江申合、右両家為相談  
差遣候跡二而 杉丁老人より承り候處、江崎二而 田村恒左衛門是迄部  
屋二居 本宅之方<sup>ハ</sup>積<sup>り</sup>酒造二在候處、當年より自分酒造仕候趣二而  
本宅罷歸り候哉二相聞<sup>ハ</sup>候、左候<sup>ハ</sup>右<sup>ノ</sup>部屋<sup>ハ</sup>強<sup>ク</sup>而入用も有<sup>之</sup>間敷、此家二

【3頁】

候<sup>者</sup>至<sup>レ</sup>極<sup>ニ</sup>相<sup>心</sup>之事二被相考候、右二而も可然存候<sup>ハ</sup>、彼方兼而懇意之  
儀二候<sup>ハ</sup>及<sup>テ</sup>相談見可被<sup>レ</sup>呉との事二付、至極左様共二候<sup>ハ</sup>宜敷義<sup>儀</sup>故二彼方へ  
相頼候處、早速書状相調被差越候故二此方より石田善十郎江持せ遣<sup>シ</sup>候、  
尤丈七差越候<sup>ハ</sup>其内六郎左衛門官一 郎當りも場所仕構二而も為仕哉も難  
計、

何分丈七江一應相對之上申合せ、其上二而趣次第恒左衛門方江相談仕可然、

慶心元年乙丑（1865）十月

江崎二而八津田庄平事、從來此方江出入家、殊二庄平<sup>ハ</sup>善十郎第二而  
旁何も無遠慮事二候<sup>ハ</sup>彼<sup>ノ</sup>之<sup>者</sup>共らも申合せ候而 心配仕見<sup>レ</sup>呉候様と  
申合遣候、罷歸様子承り候處、丈七、六郎左衛門方二居候故相對二而様子承り  
候<sup>ハ</sup>ハ

未吃度は社と申心當りも無之候<sup>ハ</sup>、御急き之事故江崎峠二而先ツ  
宿屋同様二<sup>ア</sup>當分御滞留相成候<sup>ハ</sup>、其内二<sup>ハ</sup>緩々詮義可仕、折節官一 郎も

【4頁】

萩罷出未歸り不申、是も其内歸り可申、左候<sup>ハ</sup>、申合せ兎角も御居  
所心遣可仕、右之處一應丈七歸須佐之上 御伺も可仕と申合候處江  
善十郎参り、様子承り候故右之次第第二候<sup>ハ</sup>是も弥相<sup>レ</sup>候事二而も  
無之<sup>ハ</sup>一候<sup>ハ</sup>節<sup>ハ</sup>於<sup>テ</sup>須佐八ヶ様之次第と相談し候<sup>者</sup>、左様義一候<sup>者</sup>  
田村之方一段可然との事二付、善十郎、津田方迄罷歸り 庄平父子申  
合 三人一同二田村方江参り 恒左衛門江相對、杉丁よりの書状相渡し  
趣申入候處、恒左衛門申候者誠一驚入候、御儀<sup>儀</sup>々々御當惑可被成此時  
之事二候<sup>ハ</sup>部屋之方 早速二御用二相立可申之處<sup>ハ</sup>實<sup>ハ</sup>無<sup>ク</sup>是迄本  
家江歸り可申合<sup>ハ</sup>候<sup>共</sup>、年明ケ不申而<sup>ハ</sup>當年<sup>ハ</sup>方角不仕 無<sup>レ</sup>抛未  
部屋之方二居候、明春二相成候<sup>ハ</sup>早速一本家江移り可申、其内二<sup>テ</sup>

【5頁】

暫時本家江御出相成候而<sup>ハ</sup>か<sup>ク</sup>可有之哉、本家之方も近来<sup>ハ</sup>誠二明  
屋同様、実<sup>ハ</sup>八人任せ二而六、七年打過候<sup>者</sup> 甚取乱し居候<sup>共</sup>、店向之  
餘<sup>ハ</sup>向二入用無之、座敷之方<sup>ハ</sup>向二入之出入も不仕、いつれ之間江成  
共當分御出相成可然、いつれ早速一須佐罷出御伺も可仕との返答承り歸り  
候、左候而、無間 恒左衛門罷出 杉丁江も参り、又栗山翁輔<sup>方</sup>兼而縁  
家親數間柄故二 為見廻罷越、夫より拙家江参り候二付、何角相<sup>揆</sup>及

相談相決し 弥借用仕候事、

付り 田村恒左衛門事、從來御當家江御出入二而 此方江も前々より

罷越 都合八懸意之訊一候、又津田庄平家も同様御出入家、

是八取分け内輪江も別懇二兼々参り候、庄平養父

【6頁】

者忠左衛門と申候、是迄八働事忠左衛門も須佐罷出、勿論此方全

親敷参り候、近来老年一相成餘り須佐江も罷出不申候、

津田方八橋詰江八由緒も有之候、其訊八橋詰二而龍仙

又左衛門後妻二石州山をりと申處より参り候、其方、津田方

与親族家二而 前々より別懇二田入せしめ候趣、右之山をり

より参り候人二男子有之、是則、石津英治曾祖父傳右衛門、

後民右衛門と申実名経英と称し候人也、又左衛門兼備之

腹替り之弟也、夫故庄平方者石津家も別懇二田入

仕候事、

一、此度譴責を蒙り候人数、栗山翁輔

年行司加判、育英館  
惣督 役所勤中之義と相見ル

波田與市

【7頁】

御用人

御目附兼役中之儀と相見ル 多祢順左衛門同断、宅野太郎 多祢卯市 仲井半四郎・

山崎十郎左衛門此四人二者當時為 さしたる 差役義も所勤不仕、尤半四郎 卯市事働供頭勤

方所勤二而都合八請生之部也、翁輔 太郎 卯市 半四郎遠嶋、 順左衛門・

與市儀八二郎左衛門同様御領分外住居之御沙汰也、此度御沙汰之次第、都合八

公儀より之御移り二而於御内輪八無是非次第二而御沙汰相成候位之事故二於

内実

者 強而御内輪之御悲しみも無之趣二相聞候、 委細之訊八別記二有之

候事、

一、江崎行二付、三郎左衛門事、近来氣分相二付、為介保家内召連罷越候處、いかゞ

可有之哉と物筋及内談候處、都合八二郎左衛門身柄禁足之訊二者候共、他人

相對被差留候段も分て御沙汰も無之程之義、其上為介保家内召連候處八

【8頁】

全用捨二及申間敷との事二付、三郎左衛門式人、下女吉人に中間吉人召連候二

落着せしめ候事、

一、荷物類追々用意、浦庄屋吉田富十郎心遣二而運ちん船雇立二ア

江崎差廻り候事、荷物積二其日長屋之者三人 野原利介 三谷菊蔵

已上五人當日江崎参り、荷物大中屋方江取揚仕らせ候事、

大中屋と  
申者田村

恒左衛門方

之事也、石田善十郎事も此間罷越、荷物置所彼是恒左衛門方申合せ

候事、爰元より差越候銘々昼弁當とゞ縁高飯持せ遣候事、荷物取揚

相済、八ツ時過罷歸り候一付、酒飯給せ候事、

付り 野原利介 向忠五郎荷物一件二付、此間より心配且忠五郎方二而浦

之士蔵借受、先日より入置何角世話二相成候二付、三郎左衛門引越

【9頁】

後二酒式升忠五郎 利助介兩人江催相二遣候事、

一、十月廿五日江崎引越、三郎左衛門義八氣分相彼是一付駕籠二而候、家内者

步行二而、尾浦大庭久左衛門兼而出入之者、且當時教司役故舟心遣等

宜敷二付、彼方迄罷越候、尤前廣二相移し候而八却而妨二付、途中より

申遣候、左候而、八ツ時頃越着之事、

一、出立之節、近親内并出入之者見立とゞ入来之模様も有之哉二  
相聞候處、颯々そつそつしく敷候而八表通り上江封し候而も遠慮も有之 何か  
用捨之訳二付、内々相断候故 いくらも前夜迄二追々為暇乞入  
来、當日八丹下并家内 栗山半左衛門内 向人娘 本尾官治内 翁輔娘  
来掛り之都合二而見立仕候事、官治も参り候事、出入之者八堀嘉十郎

【10頁】

家内 右田善十郎妻参り候事、善十郎事者 為待受前日江崎罷  
越候事、三谷丈七 大賀吉助も見立とゞ参り候事、

一、八ツ時久左衛門宅迄越着、於彼方少し休足之内酒飯差出、江崎  
罷越候處八薄暮頃都合宜敷二付、緩々休足せしめ候、 其内津

田庄平 右田善十郎方舟二而為迎尾浦罷越候二付、酒杯給候而  
緩々談話、夫より一舟二而大中屋部屋之上之方江着船二而

且々燈し不入大中屋本家江入候事、庄平案内せしめ候、恒左衛門  
店口罷出居 休足所案内之何角相拶之上酒差出候、

尤今夜之處八座敷二而無之而八恒左衛門氣済不仕由二付、座敷  
通り恒左衛門 庄平 善十郎取持二而緩々酒給候、左候而、夜

【11頁】

喰食者を者小座敷二而相認候事、落付いづれも罷帰り候事、

付り 今夜之處八丸々賄方大中屋より馳走二而候事、

付り 出立之節、長屋之者八水海迄見送り、尤宇佐右衛門・

友助事八用事も有之 尾浦迄召連右尾より差かへし候、

於尾浦久左衛門より右兩人江酒飯給せ候事、

慶応元年乙丑（1865）十月

一、栗山半左衛門娘おぬひ事三郎左衛門内心添旁遣し、少し折相候八  
差かへし候而宜敷、左様一候八半左衛門家内も安心可仕との事二付、  
小供之義兼而家内同様之事一候八強而用捨も有之間敷申  
合召連候事、

一、此度引越二付、豊田平左衛門中間弥吉此者村百姓一勳六と申  
者有之、兼而堀嘉十郎方

【12頁】

内輪同様之者二而其世倅二而候、長屋も無人故二、  
嘉十郎心遣二而雇買候而先ッ倉分事二ア召連候事、 下女梅 此者八曼迄  
此方一遣ひ懸

江崎住人伊兵衛と申者娘、三谷菊蔵妻之姪二而近年より此方江奉公  
せしめ、江崎事八能々存居候二付召連れ候事、内々之處八長屋ノ権左  
衛門

娘はなと申者、来二月出替り迄遣候訳二而相済候事、

一、同廿六日座敷廻り見分、恒左衛門より八いづれ成共無用捨居所二  
仕候様二と無内外深切一申候共、家内式人位之義其一格別客迎も  
無之事一候舎 手細き處宜二付、小座を居間一任候事、

付り 諸道具 衣類等夫々取出し其所々々江相納メ候事、

一、引越二付、荷物類什器 渋き道具其外入用無之物二八弥吉を以追々

一須佐差かえし候事、

一、津田庄平、此度我等共引越二付而八差懸鳥 ちよつと 渡彼方宅江

【13頁】

立寄り呉候八と含も有之由、善十郎より兼而内々承り候共、此度者様子

有之参り候事二候八参り懸りと八申他之見入も遠慮筋も有之

候二付、深切之處八難謝候共、此度八相断候段善十郎より都合罷申入候様二

と申聞せ、於庄平も入割承り却而御心痛を懸け候様二而八無本意事  
と引受、宜敷有之候由一候、左候而今夕龜酒差上度との事二而七ツ時  
頃より酒肴数々取調持参一付、於座敷取林離し候、恒左衛門 向人娘 向  
世倅いづれも幼少 忠左衛門 庄平世倅幼少 善十郎一同席二而取持  
仕候事、

一、宮内五郎左衛門兼而御館入之者二付前々より出入仕、尚三郎左衛  
門代二至り  
取分親敷参り度之義二而先年より於須佐勝も参り懇意之者

【↑4頁】

故此度江崎参り候二付、今朝為見廻罷越候、津田庄平方者至而  
手近之間柄之由二付、今夕庄平参り候二付、同道二而参り取持せし  
め候事、

一、同廿七日五郎左衛門方より為見廻見事之交 ませさかな 肴一折差越候事、  
一、同廿八日此度爰元参り候二付而八追々世話二毛相成候事二付今夕恒左衛門  
同人娘 庄平 五郎左衛門世倅丈平相招き於居間肴四種相調酒差出候、  
爰元二在居せしめ候廣槌と申者少し料理をも仕、恒左衛門 庄平方當り  
兼々出入せし候者二而 有之方、近年庄平須佐参り候節連れ来、  
此方江も参り候者故此度引越二付、早速内々為見廻参り候二付、  
此者江相頼今日料理方仕候事、

【↑5頁】

一、同日朝之内安江兵左衛門 向孫二郎為見廻罷越候事、  
付り 此者共、兼而御館入家二而表向此方江も参り候事、

一、同廿九日恒左衛門方番頭三郎右衛門 手代半五郎と申者、定法店方居  
候八用事有之節八無用捨申付候様恒左衛門より相拶も有之候二付、相  
對せしめ置候事、

一、同晦日大庭久左衛門より着後為見廻世倅伊三郎差越、餅重一組差  
越候事、

一、其後海土地之利兵衛、たたら 鑪之荷物積込せしめ候由二而此方江立寄り、  
尚内輪より頼之品を持参り候、彼方より菜園物数々差越候事、  
たたら

一、鑪 八十右衛門と申者、兼而知此人二而於須佐も参り候者二付為見  
廻

【↑6頁】

罷越追々用向も有之候八、無用捨申候様申歸り候事、

一、大谷六郎左衛門 大谷官一郎弟惣太郎 大谷五郎兵衛 向忠太郎為見廻罷越  
候事、堀野唯四郎も同断、其後堀野徳十郎より為見廻あんころ  
餅口取り相調重一組差越候事、五郎兵衛よりも肴重一組 酒相添

差越候事、惣太郎事八人来之節、菜園物持参候事、  
一、竹田普兵衛妻、たたら 鑪江参り候由二而 夜中為見廻参り候事、

一、有福吉五郎母子為見廻罷越 肴重一組 酒相添持参一付、披き  
候、左候而、彼之者共直様知行所江用事有之と申歸り候、其後内々

承り候八此方江見廻第一一而知行所八参り不申、田万仙道方参り  
一宿二而歸り候由一候事、須浦之市左衛門世倅金槌為見廻

【↑7頁】

参り肴持参之事、

一、恒左衛門事者朝夕談し二日々参り候、其外庄平・安江兩人折々見廻二参り候事、庄平事ハ兼々懇意之出入せしめ善十郎弟一候ハ爰元江参り候而ハ善十郎代りと存し何事も無用捨用事申吳候様、萬端持能取計可申と取分深切之含善十郎より此内以承り、尚又直一毛噂仕候、夫等之事故二同人恒左衛門義別而深切二世話仕吳候事、惣而此度参り見候ハ兼而御館人家之處ハつれも深切二在吳候故 至極都合モ宜仕合せ候事、

中村屋仲蔵

【18頁】

右恒左衛門方者兼而出入之者之由二而 滞留中少々入用物者彼より差出<sup>遣方</sup> 可申、若無之品ハ彼之者より心遣さらせ可申由二而先ツ者問屋之訊二在候、夫故仲蔵も折々参り候事、又三吉と申候而恒左衛門方之出入定大工之由二而少々用事之節ハ申付候様申事二而早速より何角用事も相頼候二付、折々参り候事、

十一月朔日

一、おぬひ事、只様滞留仕らせ、爰元も大分折相候<sup>だいぶ</sup>二付、昨晦日差返候事、

同日

同三日

【19頁】

同四日

慶応元年乙丑（1865）十一月

一、今日丹下御内用有之来着、趣ハ此度小銃、<sup>三二五</sup>三ネ一<sup>百</sup>挺兼而御買入之御詮義二而御頼相成居候、尤先ツ五十挺丈と申御詮義候處、御頼先兩所二而五十宛心遣仕、只今違約二而ハ甚都合不宜

二付、御義理二相成百挺御買入不相成而ハ不相濟二付、火急二天金御入用之處 御繰し六ツヶ敷、依之田万江崎二而御暫借相成、根之處ハ御借用之心積りも有之由二候共夫ハ急之事二不相成故此邊二而御暫借之為相談参り候、此節大谷官一郎も留守二付、大谷五郎兵衛江得と趣申聞せ其上二而江崎方二毛及相談ハせ可申由二而参り候處、恒左衛門事、早速丹下入来二付、参り不取敢彼方より

【20頁】

酒肴差越取林<sup>離し</sup>候内右之内話二相成、恒左衛門も大金之義ハ込も此邊二而相調不申、尤五郎兵衛共江被仰聞候ハ、申合せ此時之義相働き見可申との事二而夫より直様丹下事、田万罷越、六郎左衛門方江止宿、即夜より翌朝迄二荒々申合せ候事、

同五日

一、今朝丹下罷歸り、五郎兵衛も罷出、恒左衛門 庄平一同二彼是談向只今実二田金と申事ハ不調、當節至而爰元田万邊も不廻り、先ツ金と申者只今酒造家二少し有合候共、是ハ皆當節より米買入之用之物、當年ハ米も至而不如意故 其儀いつれも當惑仕居候ハ御米共被下訳一候ハ金之方者先ツ手當相成候事二候得者

【21頁】

御用も相弁可申哉との事一付、右米之事は於須佐も少しも為申  
合事二而も無之候共、ケ様行懸り而之事一候ハ米之仕向ニ先  
及相談可申との事一相成、相縮ル虚恒左衛門、庄平、五郎兵衛内輪ハ  
兎も角も三人ニ而米貳百石、金八百兩と申事一相成候處、左様ニ而ハ  
當節之模様ニ而ハイ米を賣り候道理ニ而強而相談之所詮  
も無之、何卒千兩出金と申懸色々申合せ、弥漸ニ二百石之米ニ而  
千兩出金、尤実ニ釜ニ毛銘々湊居候ハ御米之御蔵和市相定り  
候上者何卒餘金ニ當り候處ハ極月廿日を限り御返金と申か、  
又者式両丈け其頃迄ニ銘々江相し、御貸下ケと申かニ不被仰付  
而千金之處、甚難之趣申立候一付、何分今明日之内ニ毛

【22頁】

萩江金差出不申而ハ不相成事一付、先ツ其分ニ相約し、夫より  
金子取歸り之筈ニ候處、取揃も所詮障待合せ之内又々恒左衛門・  
庄平より酒差出、只様待合せ候共、埒明き不申、最早暮ニ毛及候者  
丹下事ハ引取り可申、跡之處ハ下拙江申置歸り候、爰元を  
出立、日入頃ニ而も有之候、然ル處、五郎兵衛も金子詮義とハ罷歸り、  
其後一向ニ様子不申越兎角之内夜ニ入、田方より飛脚之者も  
兩人出居候故先ツ恒左衛門より三百兩丈け持せ須佐差出、跡者  
揃次第ニハ三百兩、夜飛脚を以丹下方江差出候事、  
一、今朝お隆事、為見廻罷越候、長屋之民助召連れ尾浦迄参り、  
彼之地より船ニ而渡し貴候、久左衛門方ニ而茶漬飯差出候由之事、

【23頁】

同六日

一、今日金子取揃四百兩、此方之手代半五郎、お隆歸り候一付、  
民助と両江持せ丹下方江差出候事、残三百兩ハ取揃次第壹兩日之  
中差出候筈ニ候事、  
一、お隆事、一夜止り、今日帰宿之事、  
一、堀嘉十郎母為見廻罷越候事、魚野菜并餅、彼是取揃持参之事、  
一、松原惣太郎為同断罷越、肴重一組、酒相添持参之事、  
付り、無間及暮候一付、相留持参之品披き終談話之事、

同七日

一、惣太郎、今朝出立帰宿之事、  
一、早朝又十郎越着、御内用筋ハ丹下一昨日相談事之一件一付而

【24頁】

須佐之方爰元ニ而之申談し之訳ニ参り不申、只今式百石之御  
米拂出しと申處甚六ツケ敷彼是議論有之候共、終ニ不相揃  
無抛相談不仕已前ニハ金子不残返却之訳一相成、丹下處何共  
其相談ハ不得仕趣ニ而無抛又十郎参り候趣ニ候、右米不捌けと申も  
実ハ裏判共卒度究屈之論ニ而彼是説得も申見候共、引受不宜是と  
申而ハ當り支りも出来可申一付、無是非返却論ニ相成候趣と相聞候、  
右之趣早速乍心外恒左衛門江又十郎方より入候、相断夫より庄平も  
五郎兵衛をも呼寄せ申入、先ツハ字成りニ相治り申候、何分此条ハ  
須佐之方ハ存し不申候共爰元之都合ハ甚不面目事ニ候、左候而、金子  
者不残引渡し相濟候、誠ニ跡ハ双方大笑おかしき氣毒

【25頁】

之事二候事、夫より又恒左衛門より酒肴差越いつれも緩々汲替し候而又十郎事、薄暮前出立二而罷歸り候事、

一、過此五日之夕方安江孫三郎より為見廻肴重一組酒相添差越候二付、丹下歸り後孫三郎相招き、恒左衛門庄平も居相取林し候、又折節伊藤清九郎此人恒左衛門叔父、元来安江兵左衛門祖父安左衛門二男而先年萩町人唐樋之新橋之伊藤と申者方江被貰参り候處、勿論彼方家之養子之訳一而も無之、娘江申合せ出店二而も仕候趣一候處、様子有之離縁二相成江崎江歸り、恒左衛門仕組一付、部屋江参り居候故二酒造方五、六年も仕らせ、昨年迄酒造仕らせ候處、所詮不引合昨年八造酒大分痛三初中後不手際と相聞候、當節八安江

【26頁】

方之近所二小き小屋懸同前之處<sup>然</sup>一人住居と相聞候、此者為見廻参り合せ候二付、一席二而酒給せ候事、相縮ル處先ツ括り無之人物と相聞候、乍然喃之小意地八随分有之不面目人物と申事一候、恒左衛門内話二毛中々相手二成り不申共と乍雑話毎々笑談仕候事、

同七日

同八日

一、今日梅田屋姥罷歸り候事、  
一、昨日三谷菊蔵父子為見廻罷越酒吉徳持、昨夜八親類方江止り、今日梅田屋姥と同道二而罷歸り候事、

一、下女梅父伊兵衛事、此内為見廻罷越候、彼方より八拵々菜園杯差

【27頁】

候事、

一、田中之治郎吉、此内為見廻罷越釣柿少々持参候事、  
一、小室屋金治為見廻参り同断持参候事、此者八元来父平兵衛と申大谷治兵衛弟二而先年小室屋と申爰元町人江養子二参り、其後身上没落せしめ一節八萩共江も稼二出居、其後又々爰元罷歸り家屋敷も於只今八賣拂候趣二而近年治兵衛より須佐二而裏判所江相願、江崎須佐領御境御領之内少々海端借用仕候八、追々自力を以埋地仕固屋懸け仕住居仕候八、事一寄り候而八御領内之ペリ之事も被仰付次第氣を付可申との事二付、被差免候、其後固屋掛け仕西之鼻之道端二住居せしめ候事、

【28頁】

一、恒左衛門方本宅之荒圖此内二入置候事、

同九日

同十日

一、今日大庭久左衛門為見廻罷越候二付、追新買入之事相頼候事、付り 當節八薪炭等至而不如意一候事、  
一、飯料八中屋方より入用次第相渡し呉候一兼而申合せ候、尤返弁之義八申合せ半途二付、追々申合せ可申候事、  
一、昼後大谷惣太郎萩江此内罷出候而歸り候由二而立寄り、為土産

慶応元年乙丑（1865）十一月

かまほ〔持参之事、只今より鶉打一爰元沖江出得獵仕候ハ持参可申

【26頁】

と申直様罷出、薄暮頃一羽得獵せしめ取歸り直様調理仕候一付、  
酒飯給せ可申含候處、無抛用事有之急一田万江罷歸り不申而者  
不相成、其儀申上候而ハ御かハ被成間敷候間、跡一而宜敷申上呉候  
様と下女ハ  
申置歸り候事、

同十一日

同十二日

一、昨今

御先代高正院様御一周忌御法事有之候趣一付、心計り之  
御遙拜申上候事、

同十三日

【30頁】

一、須佐浦ノ重五郎母子、孫を連為見廻罷越候、あわひさハ  
土産トメ持参之事、

一、恒左衛門事、風氣之由一而昨今参り不申候事、

同十四日

一、大谷五郎兵衛より鯨到来之事、須佐釜屋善六為見舞入来、鯛一折・

酒一樽持参之事、山本勝蔵為見舞鯛一折差越候事、勝蔵  
薄暮頃入来之事、

同十五日

一、翁輔、此度渡海之趣一付、為暇之内々おとね今暁七ツ時出立  
二而須佐罷出候、中間弥吉老人召連候、御臺所親龜左衛門為見廻  
入来

【31頁】

之事、恒左衛門も只様氣分相多用旁一付、得参り不申、今日入来二  
緩談和、今日ハ式日一而も有一杯差出候處折節津田忠左衛門向庄平  
も来り小酌之事、

一、おとね暮一及須佐より罷歸り候、留守親類内無事之左かわこれ右承り  
候、栗山おたき見廻とメ罷越おとね同道一而参り候事、又廿町ノ勘蔵  
娘さめ為見廻罷越候、彼ノ者事ハ近年内輪一長々奉公仕居、只今  
二而ハ田万江有り付候共、毎時参り候者一候、此度ハ母親元参り  
夫より爰元見廻一参り候趣一而親元より菜園物色々持候事、津田屋  
部屋よりふかの皮、本家より鯨赤身差越候事、

同十六日

【32頁】

一、今昼後紹孝寺和尚来ル為見廻蕎麦粉 洒志瓢 菜園物  
色々持参、蕎麦和尚うち唐茶差出緩々閑話一而被歸候、

大谷惣太郎事、須佐出川由二而用事八無之哉と立寄り候、召遣之  
弥吉、頃日爰元二而格別用事も無之只様同様故二二応暇遣

差返し候事、

付り 日数廿日居候一付、為心附銀三拾目遣之、日別凡八〇吉匁

五分宛之積りニア、

一、大中屋恒左衛門昼前入来、緩々閑話罷歸り候事、

同十七日

一、紹孝寺和尚、昨夜西堂寺二正宿、今日須佐被歸候由二而朝飯

【33頁】

後為暇乞入来、少し談し候而引取相成候、おたきさめ召連候而

昼前後宿之事、

同十八日

一、釜屋傳六方より白炭壹俵持せ差越候事、

同十九日

一、大賀吉輔 堀嘉十郎為見舞来ル 吉助事者何角緩々

閑話二而無間罷歸り候、嘉十郎事者津田庄三郎方江内用有之

参り、夜中四ツ時頃迄居、無拠此方二而止宿之事、

付り 吉助為土産砂糖一袋持参之事、

同廿日

一、嘉十郎事、今早朝帰宿之事、竹内普兵衛 鑪 江用事

慶応元年乙丑（1865）十一月

【34頁】

一付参り候由二而鳥 渡見廻二立寄り直様引取 鑪 江参り候事、卓

其外漬物桶又少々之物持せ須佐より安吉差越用事相済歸ル 彼之者

親類田万江鳥 渡

参り候事、須佐仕立屋義兵衛立寄り酒壹徳持参之事、大谷惣太郎より

鰻調理之分少々到来之事、有福吉五郎方より大根到来、同人百姓

くねほ七ツ持参之事、

同廿一日

一、追々爰元二而之飯料米當分より恒左衛門方二而取替貰候處いつ返弁

も入り候一付、知行米之内拾俵御土居二而押、其替り下田万庄屋方江免し

二して呉候八爰元江出遣可申段又十郎江相談仕候様一此内邦衛方江

申遣候虞處、早速申入裏判座より下田万免之候事、運び可申との

【35頁】

事之由世倅方より過ル十八日申越候一付六郎左衛門方江幸便り有之

候故一即日右拾俵之米大中屋方江早速二差出呉候様二天中を以

申遣候、大中屋方二而是迄之取替米を差引残り米追々相渡

候訳一甲合せ候、地下ニア夫丈須佐江持出し不仕候故一任せ二相成候

故一勿論ちん銭なしニア大中屋江差出候筈一候事、

一、下田万神官福場但馬為見廻来ル 菓子一曲持参之事、

同廿二日

一、今朝下田万より飯料米拾俵之内五俵差出ス 手代半五郎一受取置呉候様申聞せ候、左候而、此方飯料米之内五俵之受取半五郎より田万江差越呉候様相頼候事、安江孫二郎来ル先達而音物

【36頁】

到来、相拶心二此内菓子吉箱 かまほ相添遣候、其禮と来ル也、  
一、横山左兵衛用事一付、此邊通路一付、為見廻立寄り少し談話候而  
帰り候事、大中屋よりおふ餅一重到来之事、

同廿二日

一、田万こん屋より菜園物色々取合差越候、恒左衛門方より鴨到来之由二而裾分けと調理之分少し差越候事、

同廿四日

一、山根友之助母為見舞来ル 古銘酒老徳 鮑老籠持参、緩々談し候而八ツ時頃罷帰り候、波田與市昨夜引越之由二而 手紙を以見廻旁申越候、大谷忠太郎酒場一居候、大谷五郎兵衛抱之酒場二而候

【37頁】

元来者世並屋と申候、本名八巳前八野七郎兵衛とか申旧家之由二候事、近藤宗兵衛来ル 與市を連れ候而参り候由之事、杉丁知行所米倉嘉平来ル 大根持来り見廻と  
相見候事、夜中一釜崎屋利兵衛来ル 明日須佐帰り候、

宿江用事無之かとの候事、又大中屋より餅少し到来之事、

同廿五日

一、下田万こんや大津良左衛門妻来ル 餅口取持参、夜中一與市来ル 緩々談話二而帰り候事、

同廿六日

一、下田万こん屋より焼付木差越候事、大谷五郎兵衛妻来ル あん

【38頁】

ころ 白餅取合せ二重持参之事、竹内普兵衛妻来ル 饅頭三重口取り為見廻持参、緩々談話、夜中帰り候、尤 鑪 用事有之  
由二而直様舟にて彼之地江参り候、此方長屋之佐助連れ来ル 佐介者直様此方一泊り翌日帰り候事、

同廿七日

一、昨廿六日御霊社御遷宮有之、今日八大隊御催し之由二而大谷忠太郎罷出候由二而立寄り候事、田万方よりも農兵共出候由二候事、

同廿八日

一、昼前大谷久七来ル 為見廻菓子箱持参、閑話二而引取候事、

【39頁】

津田屋庄平より五尾兎 維子調理之分差越候、又舟浦ノ金槌

小鯛一籠五尾ツツ為見廻持参之事、恒左衛門 安江兵左衛門 向孫二郎、今日又舟裏判所より呼出し之由一而参りと申、恒左衛門老人

今朝此方江参り候一付、宿江之書頼候事、大谷六郎左衛門夜中参り閑話候而帰り候事、大谷忠太郎より餅二重到来之事、

同廿九日

一、多祢順左衛門居所之事一付、六郎左衛門内話承り候而少し不審之事も有之、

今朝波田方江手紙を以内々申遣候事、今夜與市来ル 緩々

閑話、恒左衛門又舟より帰り候一付夜中来ル 緩々閑話、林半七、過ル廿七日

山口江帰り候由之事、今夕方大谷官一郎来ル かまほ五枚持

【40頁】

参、一両日已前萩より帰着、土産心と相見候事、海蔵庵より為見廻ごもく飯式重為見廻被差越候、田万湊之伊八妻須佐より帰便一持参り候事、

同晦日

一、野原忠五郎 野村勘四郎為見廻来ル 忠五郎兎一羽、勘四郎こんにやく酒吉升持参、三谷丈七来ル 銘酒式升こつせん持参之事、本尾官治・侯賀昌左衛門内々為見廻立寄り候、今日御上江津ありきより御行歩と被遊御出候、御供懸りより 一霧力鳥 渡立寄り候事、ちよつと大谷六郎左衛門益田妙義、寺歎願書下書披見之事、

慶応元年乙丑（1865）十一月、十二月

十二月朔日

一、野原利介為見廻来ル 肴一籠持参、丈七同道一而昼前一帰り候事、

【41頁】

大谷惣太郎又舟より帰り候由一而夜中入来歎願趣別一承り候事、又紹孝寺旭洲来ル 手本相頼候一付、翌日相調候事、旭洲、かふこんにやく持参之事、

同二日

一、健一郎来ル 十年ほつかさめ上酒持せ来ル 弥吉供也、彼之者も小鯛二焼餅持参之事、梅田屋より漬物 大根差越候事、弥吉者旭洲一同一帰宿之事、

同三日

一、健一郎滞留、今日昼前大谷惣太郎鵜打一参り候、浪高く得獵無之候事、福場丹波よりきじ一羽到来之事、安江藤兵衛為見廻来り候事、

同四日

【42頁】

一、昨日角屋之花 安吉一人為見廻来ル こんにやく持参、直様田万之家元江罷越、安吉事者健一郎連れ帰らせ度一今日昼後二参り候、惣太郎、今日鵜一羽持参候事、

同五日

一、健一郎、今昼後帰り候、安吉向人母一同帰り候、昨日惣太郎得獺  
鵜健一郎為土産取歸らせ候事、夜中惣太郎来ル今日昼より須  
佐罷出歸り懸け之様子、用向此度須佐二而譴責を蒙り  
候銘之趣石州益田妙義寺承り、兼而之儀一付、御内輪尚  
山口江歎願仕度由二而追々大谷六郎左衛門方江内々申越候一付、右之  
歎願書須佐持参、山口江之分者大庄屋大谷久七迄持参之由、

【43頁】

尤多弥卯一郎兼而田万方二者多人數門人も有之候一付、右門人中  
よりも御譴責御寛大之御所置歎願之趣も有之、此分八南  
苑隊江周旋相頼由旁一付、明日生雲罷越候趣二而右之  
歎願書内見二入レ可申と存持参一付、及披見候、左候而、生雲  
江者惣太郎、六郎左衛門世倅八十八太兩人参り候、又須佐より松本  
唯市、増野小五郎兩人此度譴責を蒙り候銘之處  
南苑隊之周旋相頼度由二而 右兩人も生雲罷越候由  
惣太郎噂二承り候、右之歎願者書面八披見不申候共、館中  
連中より之様子二惣太郎噂申候事、

同六日

【44頁】

一、江崎人廣槌相招き写本類裁せ候、長屋ノ卯佐右衛門来ル檉炭  
少し持参、留守より之書状等持来ル 無間歸り候事、

一、昨五日大尾邊下山廻り介左衛門為見廻来、蛇三ツ唐いも持参之事、夜中  
波田與市来ル 緩々閑話二而歸り候事、

同七日

一、おたか為見廻来ル石田善十郎妻も一同二来ル 長屋豊治  
連れ来ル石田金ざんし一曲、蛇三ツ持参、大崎屋より右之  
便二飽三ツこつせん一袋 砂糖小曲三ツ差越候、おたか用事  
相済一同二歸り候事、栗山翁輔渡海之様夕方二相聞へ  
候一付、おとね事、為暇須佐出候支度之處江留守より民介・

【45頁】

佐介兩人飛脚と申越 弥出船之様子、折節おとね  
風氣一付大中屋二而駕籠を借り候而須佐参り候、兩人  
之者直様供二而歸り候、駕籠八此度八触れ候舍差  
止候、近来八通例二而者出し不申由 以後之事八相分候共、  
定而庄屋之心配二而可有之哉と被思召、夜中五ツ前二  
爰元出立二而候、下女梅を召連れ出候、留守八彼之妹  
を雇候事、恒左衛門もくり山出船之様子承り、おとねより  
少し後れ候而駕籠一肩須佐出候、是も折節病氣之由  
二而駕籠二而出候事、  
一、昨夜上酒場より漬物色々到来之事、

【46頁】

八日

一、大谷六郎左衛門方よりかまほ五漬物色々到来之事、今昼時頃恒左衛門栗山見立相済帰宿之由二而入来 以後二様子承り候事、今夜暮時頃おとね帰り候事、與市 恒左衛門入来之事、

九日

一、今朝廣槌此内写本裁残りを裁二参り候事、今日又二而大隊有之趣二而田万より出候銘々共、今朝五ツ時爰元通行之事、今日之大隊八公儀役人衆見分とゞ又二越着之由、右二付、大隊催しかと被相考候、定日八二之日二而候事、今日之處八三日之下稽古之由二後手相聞也、野頭村畔頭石川七左衛門 高山同石橋六郎兵衛為見廻来儿 小鯛一籠兩人

【47頁】

催相二持参之事、

同十日

一、今日内田権左衛門 向人娘喜勢来儿 小鯛式持参之事、昼後帰儿 昼頃恒左衛門内始而来儿 未病氣半途二候共、明春本家江歸り候一付、年廻りも有之候二今日鳥 渡當家二而昼飯給初候由二、右二付来り候二付、相對之事、恒左衛門同道二而内々後口之山江為行步参儿 一瓢相 攜 緩々山上を廻り見候事、野頭村田村利兵衛為見廻来儿 匏吉籠持参之事、栗山半左衛門内おとみ召連為見廻参り候事、安江兵左衛門方より為見廻着重一組 提重江あんころ差越候事、大尾大庭左衛門江用事有之候間、鳥 渡参

慶応元年乙丑（1865）十二月

【48頁】

吳候様申遣候處、今日入来、たは二等持参、用事者近来又々長征之事有之、此度江戸より御目附藝州迄御下り山口より六戸備後 廣瀬 山縣其外隊中之者両三輩御呼登し二而御糺向有之、趣次第二而御國追討之御所置一毛可相成哉二付、諸御國境御手當之義御触出し有之候二付而者御領分佛坂其外御手當之御詮義も相成候、然儿處三郎左衛門只今之身分二而者御沙汰無之而者押而須佐帰宿も不相成、萬一追討勢佛坂其外御境江相迫り候模様有之候節八江崎之義本筋二而其上公儀より出張之御人数趣二寄り候而者家々宿二毛可相成も難計、三郎左衛門事病氣も未寤と無之、火急之步行等不相調候八萬一之節八先ツ差當り尾浦江除け居可然、其上二而更 工面も可有之と存、右之節八左衛門心遣を以早速二

【49頁】

迎舟江崎江差越、尚少々之荷物も有之候八人両三人位も差越吳候八、當座之除け用意も可相成と存、久左衛門江相頼候處、以後相心得左様之節八速二口ケ様共可仕、兼而手當仕置可申候間、其段二おいて八安心仕候様二と請相候事、左候而、右等之談し相済無間引取候事、

同十一日

一、今昼頃栗山半左衛門 向久蔵為見廻入来之事、留守より人差越候、其跡より留守江人差越候由二而蛤持せ書状ヲも持せ差越候而無間差かへし候、半左衛門并家内一同二夕方帰宿之事、尤久蔵事八今日一日留置候事、浦庄屋吉田富十郎妻津田屋方江参り候由二而式着一折差越候事、

慶応元年之丑（1865）十二月

其後富十郎妻来儿少し談し候而歸り候、今日直様存歸り候趣之事、

【50頁】

一、今夜與市謫<sup>たくきよ</sup>居江内々乞相も有之参り候大谷五郎兵衛も出居候而緩々閑話、殊二五郎兵衛心遣二而段々馳走二相成、九ツ前歸り候事、五郎兵衛方より為土産  
家内之方も小重差越候事、其後承り候舍與市馳走由一候事、

同十二日

一、大谷惣太郎生雲より昨夜歸り候由二而昼後入来小鴨志羽為土産持参之事、生雲之様子承り候處、妙義寺より之歎願書八御代官之方へ大谷忠兵衛より吉部二而差出候處、至極尤之義、折節御目付も出張一候八申合せ早速二山口江可申出との義一候扱<sup>さてまた</sup>又田祢卯市身上之儀一付、歎願趣八南苑隊総督佐々木男也江  
忠兵衛取計二而惣太郎も令相對候處、師弟之間二而八至極尤

【51頁】

之次第、ケ様祐可有之事二者候共、一應御沙汰相成候事一候舍只今兎角儀八隊中より一向二被申義二而無之、先ツ御沙汰通り二口つれも仕候而跡之處早く御免罪と申候處八幾重も周旋仕り可申との事之由、又大谷樸助一条之事を相尋候處虚、惣太郎二おいても其儀八し下二又之風聞八承り候共、耽と仕候義八承知不仕、其儀八罷歸り候而得と承り候八、以後相分り可申、様子次第大谷忠兵衛方迄書中を以可申越候間、御讀被成下候様二申置歸り候由、男也申分二者何分樸助も

御先代中追々被召遣候者一候八其御所置之處些とい哉二被相考候口氣之由、どふも其節之次第追々弁解も相成居候事二候共、兎角事徹底不仕趣と相考られ候事、蝗瀉野

【52頁】

増野文吉参り候、為見廻蕎麦切り四重物持参之事、直様田万へ参り候由二而歸り候、明日又歸り懸立寄可申由之事、

同十三日

一、今昼後増野文吉田万より歸り懸立寄り候一付、久之進も右同道二而罷歸り候事、組ノ善槌為見廻来り、櫻炭志儀大根等持参之事、下女梅身元よりおばあ吉喉差越候事、波田與市夜中入来之事、品川繁吾此邊針立テ二参り候由二而為見廻来候事、

同十四日

一、豊田平左衛門父子 平田七右衛門為見廻罷越、兎志羽為土産持参之事、無間逢引取候、善槌事も今日歸り候事、

【53頁】

戸倉三郎兵衛方より鯛折 酒吉徳小祝吉重ね為見廻差越候、実者三郎兵衛六十吉之心祝仕候由一候八其祝之物と相見候、追而此方よりも祝候心持二て肴代吉封差越申候事、

同十五日

一、庄屋安江藤左衛門より鯛一折到来之事、昼後恒左衛門居所江

初而見廻候事、無是何角之相搦一参り可申善之處、

恒左衛門妻久二病氣之由一付、妨と存只様差相候處、頃日八

大分快床揚げも為仕様子二付、十五日旁一付鳥ちよつと渡見廻候事、

品川繁吾、今日須佐歸り候由二而立寄り候一付、宿状取

頼候、大谷官一郎も須佐罷出候由二而立寄り候一付、丹下方之

【54頁】

書状相頼何角傳言申候事、夜中津田庄平年忘れと酒肴

持二而緩々相談し罷歸り候、廣植召連れ参り、折節恒左衛門も出逢、

番頭三郎右衛門を呼候事、夕方恒左衛門方白魚初物少々到来之事、

同十六日

一、此間たたら鑪より為歳暮檜灰言儀炭消し言ち弥三右衛門より差越候事、

恒左衛門・

庄三郎別而世話二相成候一付今夜年忘れ心二丙々相招き一杯差出候、

大中屋番頭三郎右衛門尚又廣植も毎つね一世話二相成候一付、呼候而一

杯給させ候事、折節

與市来懸り候一付留メ候事、肴類折節到来、有合丈二而済候事、

同十七日

一、清九郎より小き菓子箱為見廻差越候事、庄屋安江藤左衛門父藤兵

衛

為見廻参り候、八十二歳二相成候由、至而堅固二相見ル尤耳者遠  
く候事、

同十八日

一、金吾為見廻来ル酒一徳切封持参、昼後帰宿之事、

留守より長屋之友助差越候、餅其外二入用之品差越候、

無間差かへ候事、今夜節分二付鬼打豆恒左衛門方より本家中江

時候一付、此方二者格別二無其儀、尤鬼打豆少々貰候而此方之神棚

江上ケ候、又だら

鋳も恒左衛門方皆鋳り候、此方二者言ッ貰神棚者揚げ候事、

同十九日

一、吉野利吉為見廻来ルこん心歳暮と持参之事、石田

善十郎昼後來ル大崎運平妻より為歳暮砂糖一曲善十郎へ

【56頁】

頼候由二而持参之事、夜中津田庄平善十郎同道二而参り、善十郎

庄平方江参り一杯給させ可申候處、夜中御徒然之御紛れ二毛可相成と

存、善十郎同道二而罷出候由二而軽き酒肴持参、緩々閑話二而歸り候

事、

同廿日

一、堀助四郎御代官所御留置也之事二付、爰元参り候由二而見舞と

立寄り候、玉子七ツ持参之事、丹下父子為見廻夕方来ル地下打廻

【55頁】

慶応元年乙丑（1865）十二月

り小左衛門来ル 酒吉徳持参之事、

同廿一日

一、今昼後丹下父子 右田善十郎一同<sup>足力</sup>帰須佐之事、尾浦大庭久左衛門方より薪少し廻し候事、ずり 吉羽差越候事、

同廿二日

【57頁】

一、堀嘉十郎母 福田屋多吉来ル 梅田屋より小鯛唐ずし一重・たわら一重 重持参、多吉蕎麦切二重 さえん物色々持参之事、

同廿三日

一、昨日岡部次郎兵衛為見廻来ル 酒吉徳差越候、時勢彼是緩々閑話二而引取り

候事、大谷忠太郎先達而因<sup>州力</sup> 邊江参り帰り候由二而入来、彼之邊より石州

邊之時勢之模様緩々承り候事、大賀宇吉 上杉園右衛門為見廻来ル 園右衛門<sup>兎</sup>吉羽持参之事、留守より塩ケ物 醤油等持せ安吉差越候事、今日大中屋餅搗之由二而部屋江被呼候、外二客者無之 軽き取肴二而酒差出、餅煎流しニ差出候事、

同廿四日

【58頁】

一、今日境研哉相招き三郎左衛門兼而之氣分見せ遣事、

折節少し風氣二付風薬貰候事、大蓋<sup>繻</sup>寺長老確翁

入来、金米糖一曲持参之事、少し話し二而引取り候事、梅田屋より外用有之人差越候、序二天根 漬物等差越候事、大谷岩尾、波田方江見廻二参り候由二而此方江も立寄り無間引取り候事、

同廿五日

一、今日おいし伊兵衛召連れ来ル 茶 干大根土産、大田

丹宮姉娘 治郎吉 小五郎 宅野<sup>駒力</sup> 之介来ル 丹宮より

初郭公茶吉袋差越候事、いつも夕方帰須佐 之事、大谷丈右衛門田万江用事二付参り候由二而立寄り候事、

【59頁】

同廿六日

一、大谷丈右衛門田万江参り帰り懸け之由二付、立寄り候、少し談し候而無間

帰り候事、大谷忠太郎入来之事、

同廿七日

一、長屋之嘉七来ル 其便二橋詰よりス存焼鉢<sup>かぶら</sup>吉ツ 蕪<sup>かぶら</sup>を差越候事、

梅田屋より赤漬大根差越候事、蕎麦屋多吉より大根 達根差越候事、大谷五郎兵衛方より 獺<sup>かわつそ</sup> 少し 北国之漬物大根

沢山二差越候事、大谷六郎左衛門方江たき付木所望二嘉七遣シ取帰り候事、

同廿八日

一、今朝嘉七須佐差返シ候事、當暮八徳山御隠居御逝  
去二而 過ル十八日より来正月三日迄鳴物 音曲停止

【60頁】

被仰付候二付、銚りも無之趣、尤内神棚八銚りも相調

候様子二相聞候、身柄居所小き神棚江も餅細き分

土器江入其かたち二差上候、身祝ひ之心二而小床江三郎左衛門式人

之分かざり候、神棚小床江輪銚せしめ候、神棚江八

三朝か間御福木 菓子 雑煎餅 大福等上げ初メ候處、

中村屋仲蔵方より為歳暮人參 釣柿差越候事、此間

大草祐 純力 母為見廻来ル 釣柿 小鳥持参之事、大庭久左衛門

よりのり為歳暮差越候事、仙道孫介より銘酒式升差

越候、海土地彦兵衛より此内干鯛差越候、釜屋傳六より酒言徳

差越候、田万こん屋より人參くねほ大根等差越候事、

【続く】

【61頁】

仕立屋ノ儀兵衛石州より帰り懸鳥 ちよつと 渡立寄り候、再征事も先ツ

積二而 已二濱田 出張之軍目附兩人共二湯津江引取り相成候

由、其外福山當りより出張之人数も追々引取二相成候由之噂二

候事、海土地之利兵衛立寄り候事、下田万江行き候由之事、

同廿九日

慶応元年乙丑（1865）十二月〜同一年丙寅（1866）一月

一、本尾官治方より為見廻歳暮旁人差越、のり 牛蒡 人參、おと

ね たこ 心付 入り地言差越候事、津田屋庄平方より為歳暮

若水田 子 たこ 数の子 中汲酒言升 代々 橙 差越候事、津田屋

部屋忠左衛門より為歳暮のり差越候事、山根屋清太郎より葛言袋 蕎麦

切り差越候事、岩見屋五郎右衛門より為歳暮 すゐめ 鯛 差越候事、ひでと

申女より

【62頁】

蕎麦切り一重持参之事、追々は迄入来之銘々暮之禮二八

不入、當年者御停止中故無其儀故、於平年迎も爰元 皆 商家

故暮之禮事从餘り無之哉二相聞候事、小鯛 代々一籠為

歳暮恒左衛門方より、尚又挽茶 卷 すゐめ 鯛 等差越候事、

慶応二丙寅元日 晴

一、元旦之心祝せしめ候事、恒左衛門為祝詞入来、数之子ニテ酒出し初之  
事、番頭 手代共追々来ル

【63頁】

同二日 晴

一、恒左衛門家内為祝詞と すのこ 入来之事、長屋ノ民助来ル 蛤一 簀  
留守より差越候事、

同三日 晴

一、今朝民助今一日留置事、長屋ノ宇佐右衛門来ル 無間帰ル 浦ノ七



同八日 雨天

- 一、田村利作為見廻来ル みりん酒吉徳持参之事、夕方より恒左衛門家内

【67頁】

相招き軽き酒飯差出候、番頭三郎右衛門ヲモ招き候事、

同九日 終日曇天

- 一、今夜堀野唯四郎来ル 困暮之事、

同十日 晴天、夕方雨天ニ相成

- 一、邦衛来ル 堀嘉十郎来ル 邦衛夜中与一方江見廻候事、津田屋全モ同断、

同十一日 雨天

- 一、今日恒左衛門方邦衛被呼候ニ付、家内モ参り候様申事ニ付、一参り候、邦衛より肴ニても可差越之處、天氣相ニ而不相調肴代吉封銀八匁遣候事、嘉十郎モ恒左衛門呼候ニ付、参り候事、津田庄三郎より邦衛江銘酒貳升

【68頁】

差越候事、

同十二日 昼前少し雨、無間天氣

- 一、今朝飯後邦衛 嘉十郎一同歸り候事、

慶応二年丙寅(1866)一月

同十三日 晴、夕方より雨天

- 一、田万鍛冶屋より菜園差越候事、

同十四日 半晴

同十五日 晴天

- 一、今朝水海之茂八為見廻来ル 後付ノ喜左衛門世倅治兵衛来ル のり持参之事、浦ノ七兵衛来ル のり同断、平嶋ノ六右衛門来ル 酒肴持参之事、吉田富十郎 内田三四郎来、酒肴代吉封宛持参之

【69頁】

事、大庭久左衛門 右田栄助来ル 栄助酒肴樽預り持参之事、

同十六日 昼後雨天

- 一、今日山本庄三郎来ル 鯛一折 酒貳升持参之事、夕飯後、富十郎・三四郎来り、庄三郎一同ニ酒給せ候、津田庄平 大中屋恒左衛門 安江兵左衛門 安江孫二郎参り合せ、いづれも兼而懇意ニ付、留メ候而一同ニ酒給せ候事、富十郎、三四郎より此方来り、別ニ鯛一 生手物有合とシ差越候事、

同十七日 四ツ時より天氣快晴、寒風也

- 一、三四郎 庄三郎 富十郎 三人津田屋止宿、今日歸須之由ニ而八ツ時過為暇乞入来之事、増野文吉・

【70頁】

角屋伊三郎来ル 本尾官治夜中来候事、

同十八日 天氣

一、今朝六ツ時官治帰須佐之事、大嶋より之書状官治持参之

事、宅野より相嶋へ人遣し其人取歸り候由之事、八百屋之治兵衛来ル

砂糖一曲持参之事、大崎運平妻来ル肴一籠すし一切濁酒

式升持参之事、此内田万中村直左衛門世倅妻来ルのり持参之事、

右妻実父之方より釣柿差越候、右妻は近年下女一遣候者故其縁一而

折々又江も出候事、内田壮太郎為見廻来り候事、杉丁老人

式人克己三人来儀、酒壺升 小鯛一籠被為持候、其外

菜園物等、三谷丈七来ル 酒壺樽持参、大 谷方 吉助

【71頁】

来ル 小鯛一籠持参之事、無間歸り候事、夜中大谷

五郎兵衛方より杉丁一参り候一付、大鯛一枚差越候事、

夜中波田與市来ル

同十九日 雨天

一、今昼後杉丁を恒左衛門方へ相招き候一付、此方江も同

道一而参候様申事一付、一同一参り緩々相談し候、軽

き酒飯振舞有之候事、

同廿日

一、今日も杉丁滞留之事、薄暮より大谷五郎兵衛酒

場之方江杉丁一同一被呼候一付、参り候、色々酒飯之  
馳走有之候事、

【72頁】

同廿一日 昼後雨天

一、今朝杉丁帰宿之事、大尾迄船一渡り直様歸り

候事、宅野太郎内来ルくねほ菜園物持参之事、平嶋ノ

初五郎より肴一籠差越候事、

同廿二日 雨

一、今日長屋之友輔留守より醤油持せ差越候事、松井九郎左衛門御廻在二付、

田万出役懸立寄り候事、

同廿三日 曇天

一、戸倉三郎兵衛・竹田普兵衛来ルいづれも砂糖一曲持参之事、

杉丁より人被差越 醤油被差越候事、浦ノ重五郎父子来り候事、

今夜津田屋庄平方江被呼内々参候處、色々取揃馳走有之候、

恒左衛門同道一波田與市をも呼候事、海土地吉兵衛妻為見廻

【73頁】

夕方来り候事、

同廿四日 天氣

一、宅野家内、今朝飯後歸り候事、又浦西ノ市左衛門めノ持参之事、

栗山翁輔長男、包達  
来り候事、栗山内蔵太、松原惣太郎、井上龜槌来ル、惣太郎宿より  
のり差越候事、

いづれも田万より帰り懸け由、

同廿五日 晴天

一、今日おたか来ル、長屋ノ権左衛門妻、向人娘来ル、組ノ三右衛門来ル、  
権左衛門

妻ニ右衛門、無間帰り候事、知行所豊田平左衛門来ル、無間帰り候事、

同廿六日 晴天

一、今日野原忠五郎妻、後付ノ喜左衛門、同野原利助同来ル、喜左衛門  
妻、あわび志龍、忠五郎妻釣柿、利助妻のり持参之事、

【74頁】

おたか大屋江鳥、ちよっこ渡参り候處被留、三郎左衛門、式人江参り候様ニ  
恒左衛門直ニ采り相招き候付、参り候處、輕酒飯之馳走有之候事、

同廿七日 晴天

一、今日三郎左衛門灸をす候事、

同廿八日 晴天

一、今日おたか、花召連帰り候事、城市種治、昨夜此邊参り候由ニ  
立寄り候一付、今日帰り候故同道ニ而帰り候一付、外一男子之  
供者付け不申候事、学方屋ノ市郎左衛門為見廻来ル、山鳥一羽  
持参之事、夕方帰り候事、江崎農兵共今日より高嶋

流稽古始ル、喜部より見合三人被参候由之事、津守復兵衛

【75頁】

為見廻来ル、菓子箱持参之事、

同廿九日 晴天

一、須佐浦ノ金槌、向ノ吉蔵両人来ル、小鯛三死持参之事、津守政蔵・  
石橋六郎兵衛両人来ル、百足祝義持参之事、山本昌三郎方より雉子  
差越候事、

晦日 天氣

一、大浦久左衛門参りめはる持参、困暮仕り候而帰り候、薪も廻し  
吳候、又留守より居風呂差越候事、今八ツ時頃ニ  
福原駒之進、芳山鈴尾駒之進様、爰元御通行、昨夜上小川上野御泊ニ而  
佛坂関門今日御見分、爰元御昼、今夜須佐御泊りと  
申事ニ候事

【76頁】

二月朔日 晴天

一、松原善之丞来ル、肴代百足祝義持参、釜屋ノ善六来ル  
小鯛一折持参之事、廣槌来ル、又十郎方江書状遣入宿迄送ル  
善之丞江相頼候事、

同二日 昼後雨天

一、今日天氣も宜敷一家内并大中屋娘同道ニて為行歩後  
之山江内々ニ而登リ、教專寺之糸桜咲候ニ付、寺之山上迄行  
き詠メ候處、寺人も無之ニ付、鳥ちよつと渡参詣せしめ處俄ニ雨降出し、  
無扱表より津田方江立寄、雨を除け候内大雨ニ相成、山通りハ  
風雨故不被帰、先方ニ毛留メ候ニ付、町内白中往来も  
用捨有之、無是非彼方ニ相滞リ日暮候ハ歸宅之事、

【77頁】

津田屋相滞り候内中飯夕飯等真之茶漬ニ差出、真ニ  
手輕き取肴鉢ニしたし位ニ而杯ニ酒をも差出候事、

同三日 晴天

一、岩本官實一郎来ル肴代吉封持参之事、橋詰長屋ハ右衛門来ル  
丹下方より之書状持参、直様彼之者用事ニ付、下田万参り候由  
之事、高津伊太郎来ル玉子持参之事、

同四日 曇天

同五日 雨天

一、昨夕方海蔵部屋来ル為土産あわひ吉籠差越候事、田村龜市為見廻  
来ル密柿一籠持参之事、  
大中屋より初市焼餅到来之事、

【78頁】

同六日 晴天、日入頃より曇天

一、今朝飯後海蔵庵部屋歸須佐之事、供ハ岡人上下三人也、鈴  
野川庄屋増野瀧左衛門為見廻来ル酒言樽山鳥一羽・わさび  
持参之事、地下打廻り小左衛門来ル大濰寺西堂寺和尚来ル  
同七日 雨天  
同八日 昼後天氣、夜中又雨  
一、三谷伊兵衛来ルさへ湯葉持参之事、今夜大谷五郎兵衛  
船江内々与市同道ニ而参り候、此方家内大中屋妻同  
道ニ而候事、

同九日 終日雪少し雨降り候事

【79頁】

同十日 雪天

同十一日 半晴半雪

一、昼後竹内普兵衛、鑪たたら江用事ニ付、参り候由ニ而立寄り候事  
邦衛事、岩國より此内生雲迄歸楊柳眼病見せ候而歸  
宿之積リニ候處、折節楊柳留守ニ付、滞留ニ而昨夜漸  
帰宿之段傳言仕候、以後之事ハ近日書状ニ而申越候  
通り傳言之事、

同十二日 晴天寒風

一、今日梅田屋より大里屋へ入差越候訳ニ付、宿より何角傳言有之、橋  
詰よりかせ頼須方  
越候、右歸便江大中屋より頼之染物宿迄差送り候、梅田屋より漬物差

越候事、

【80頁】

同十三日 快晴

一、今夜大谷五郎兵衛妹おいね来ル 緩々談し候而帰り候事、

同十四日 昼後雨天

一、今日大中屋より被誘尋、後より舟にて西堂寺内々鳥渡参ちよつと詣、無間帰り懸け 鑪たたら遠見之ため彼之沖小嶋と申所参り居候處、折節雨模様一相成、兎角之内雨次第濃く無拋鑪木固屋へ揚り雨除候處、鑪世話人弥三右衛門と申者、大中屋兼而懇意、此方江も折々参り懇意之者之二付、彼之者見請鑪勘場江参り雨を止め候様二と達而申事故、雨具迎も一向二用意無之故、勘場参り居候内大雨一相成也

【81頁】

不取敢弥三右衛門酒差出緩々相談し、夜二入少し雨薄らき候二付、いづれも一同船一而帰り候、杉丁のおちせ留守参り候處、鑪江参り趣承り跡より夕方来り候事、

同十五日 雨天

一、昨日石田善十郎妻三谷丈七姉娘同道二而来ル 丈七娘砂糖一箱、善十郎妻あわび菜園等持参、無間帰須佐之事、杉丁より菓子箱 菜園物等持せ参り候、横屋丁

栗山宅野より菜園物色々差越候事、下三原之作右衛門為見廻来ル 鮎持参之事、

同十六日 雨天

【82頁】

一、今日おちせ昼後帰須佐之事、尤下女吉人召連り帰り候様申候とも、子供を下女二をわせ、雨天模様二毛候へ公大雨二共相成候而者困込り可申二付、海士之利兵衛二鳥渡供仕呉申間敷哉と朝之内直一相頼候處、請合候而帰り前二合候處、鳥渡田万江参り無間帰り候由宿より申候二付、待合せ候處、又帰り候而又田万参り候様申二付、兎角之日も立子急二入も無之、おちせも子供連れ故下女式人二而八傘之持手も無之故二無拋此方之下女梅を付け可申と申候へ吉人女おちせも断候とも何角氣濟不仕二付、無無理り二此方より下女を付ケ差かへ候事、大谷五郎兵衛酒場よりおちせ参候二付、軽き肴重一組酒一樽相添差越候事、

【83頁】

同十七日

一、今日山根丁栗山おちせ為見廻参り候事、下女梅も一同一帰り候事、

同十八日 天氣

一、今日栗山おちせ昼後歸り候事、宮内次右衛門為見廻来ル 銘酒式升持参之事、三谷丈七用事二付、此間乞相候處、今夕方来り候二付、我等居所之儀其外段々内用申含、邦衛舟下文十郎相談仕候様二申付、夜中なから同心も有之歸須佐之事、

同十九日 天氣

一、くり山おちせ方家内倉状差越入大田丹宮大丹も昨夜山口より

【84頁】

帰宿之由二候事、横丁くり山より人差越候、明日嶋便舟有之候二付、肴遣し度候共、須佐肴無之受元一而買得之事頼越候一付、大中屋頼三平そ小き分買候二付、差送り候、代銀式拾目差越候共、八錢式拾目位之由二而少し過錢、くり山より差越候人二持せ差かへ候、又嶋江之書状、此方之分式通、波田方之分式通、恒左衛門より志通、已上四封一封ニマ三郎左衛門より栗山内藏 太包達内藏 太方相頼越候事、大津屋良右衛門妻夜中二入来、焼餅志重外二てり煎物 煎豆等持参之事、

同廿日 大風雨

【85頁】

同廿一日 雨

夕方三谷丈七来ル 留守其外此内申遣候用向二付、以後二申越候而承り相濟、丈七八夜中歸須佐之事、

同廿二日 晴れ寒風

一、岩田市郎兵衛為見廻紹孝寺旭洲同道二而来ル 紹孝寺より菓子箱被差越候、市郎兵衛金百疋 菓子箱持参之事、昨夜より大中屋方之恒左衛門祖母年忌二付、本家二而法事相営候、各八後御座敷二居候故格別添一者不相成候、客相濟候而此方江乍失礼(注) 斎 差出度由二付、於居所相認候、恒左衛門并家内度々相拶挨拶仕候、客引け候而他人居不申節内、仏舎典百疋上ケ候而

【注】斎〃物忌みに用いる音酒、にこり酒のことか。斎濁せたく。

【86頁】

焼香せしめ候事、宮内傳五右衛門世倅此邊参り候由二而為見廻来ル 菓子箱志持参之事、紹孝鉄牛當節西堂寺二居候由二而為見廻入来、煉羊かん持参之事、

同廿三日 晴天、日入頃より雨天

一、堀嘉十郎母 孫来ル すし二煎赤漬持参之事、石田善十郎来ル 昨日旦那様萩より御帰座之由二候事、今日西堂寺和尚入来、緩閑談、今夜中参詣候様二被申候二付、波田與市同道二而参り候處、茶并夜食共出候而

緩々相談し歸り候事、

同廿四日 雨天

一、健一郎参り候事、為土産とメ烟草二玉持参之事、

【87頁】

同廿五日 雨天

一、夜中坂井研哉見廻候事、

同廿六日 天氣、尤四ツ時より能く晴れ候事

一、今昼後健一郎堀勝三郎向祖母一同帰須佐之事、後付ノ喜左衛門田万御用二付、参り候由二而鳥渡立寄り候事、

同廿七日 晴天

一、大谷五郎兵衛又存罷出候由二而立寄又歸り候由二而内輪無事之左かれこれ右聞世立寄り候事、後ノ喜左衛門須佐罷歸り候由二而立寄り候事、

同廿八日 終日曇天

一、大谷五郎兵衛妻来ル全柳寺和尚為見廻入来、砂糖一袋

【88頁】

持参之事、

同廿九日 雨天

慶応二年丙寅(1866)二月~三月

一、今朝大谷五郎兵衛須佐罷出候二付、用事無之哉と立寄り候事、西堂寺和尚夕方より入来、緩々閑話帰山之事、

三月朔日 雨天

同二日 晴天

一、石田善十郎石州江探索とメ此内罷越、昨夜津田屋迄歸り候由二而今昼前入来、石州尚藝州邊之様子承り候事、大中屋より妻之身元江此内人遣し、右之人、昨夜罷歸り長征之模様、藝陽之模様寺西方より内密申越候由二而内々書面披見せしめ候、火急之模様

【89頁】

一毛不相見邦衛方江右写し相調、今日差送り候事、

同三日 晴天

一、吉野利吉来、干大根肴代持参、無間歸り候事、大谷五郎兵衛又存罷出候二付、用事無之哉と昨夜来り候事、小野浅右衛門入来、彼方より今朝孟宗竹ノ子差越候事、大谷惣二郎先達而下之閑罷越歸り候由二而入来、萩より取歸りとして孟宗竹子持参之事、堀駒之助母爰元身元江参り候由二而為見廻今夜来ル鯛一折二尾持参之事、横田半治為見廻夜中来り候事、

同四日 晴天

一、大中屋恒左衛門事、今日須佐罷出候二付、留守合角傳尚邦衛方江之

【90頁】

書状相頼候事、番頭三郎右衛門より孟宗竹子到来之事、夜中  
仙道孫助妻来ル わらひ 菜園物持参之事、

同五日 晴天

一、戸倉三郎兵衛妻来ル 為土産菓子箱持参之事、夕方孫助妻歸り候事、  
三郎兵衛妻同断、

同六日 晴天

一、吉田源蔵来ル 石田善十郎同道、彼之者六十歳之祝之物と云、祝  
一重ね、尚重一組 酒相添持参、善十郎、津田屋庄平同道ニ而来リ、  
右之品  
取林囃し、夜中津田屋 喰り候事、

同七日 晴天

一、同人、善十郎歸す存之由ニ而今昼前立寄り候事、仁保宗謙事、善十郎へ  
傳言せしめ候事、恒左衛門歸ル 留守并親類内左かれこれ 右聞せ候事、  
玉屋長兵衛来ル 肴持参之事、

【91頁】

同八日 雨天

同九日 曇天

一、三郎左衛門氣分相一付、仁保宗謙相招き来ル 橋詰より為見廻吾介  
妻差越候、宗謙八即日歸り候事、吾介妻八無人一付留置候事、  
昼後おたか為見廻来ル

同十日 晴天

一、海蔵庵お綾為見廻来ル

同十一日 昼後少し雨

一、お綾おたか同道ニ而歸り候事、堀嘉十郎為見廻来ル 福場丹波へ  
加持相調賞候一付入来、嘉十郎即日歸ル

【92頁】

同十二日 且々天氣

一、橋詰姉様為見廻御出之事、

同十三日 同

一、御同人昼後御歸り候事、

同十四日 晴天

同十五日 同

一、浅村末吉為見廻来ル 此間より三郎左衛門少し氣分相一付、橋詰お  
石くり山おちせ為見廻来ル 三谷伊兵衛  
来ル 吾介妻夕方差かへし候事、おちせも歸り候事、

同十六日 同

一、松井龜之進世倅直左衛門為見廻来ル 酒式升 玉子其外野菜物

【93頁】

持参之事、三好屋ノちせ長屋之花来ル、おいし帰り候事、  
昨日山根丁くり山より鯉到来之事、祈祷物も差越候事、  
石田善十郎為見廻来ル

同十七日 同

一、藤井徳二郎三原松岡五郎来ル、三谷菊蔵妻来り候事、

同十八日 同

一、打廻り忠之丞御用二付、此辺通行之由二而為見廻立寄り候、  
免持参之事、梅田屋之姥為見廻来ル、色々土産持参之事、大谷  
太兵衛家内之者為見廻来ル、鮑其外色々持参之事、御駕籠  
多七為同断来、小鯛一折持参之事、呉服屋ノ勝蔵より鯽吉為見廻差  
越候事、

同十九日 同

【94頁】

一、安江兵左衛門方より小鯛一折差越候事、梅田屋姥三谷伊兵衛帰  
須佐之事、

同廿日 雨天

一、今夜大谷六郎左衛門妻為見廻来り候、安江孫次郎母為見廻来り候事、

同廿一日晴天

廿一日也、

紹孝寺隠居被参候事、

先々、御番所岡惣右衛門事、此邊被参候由二而為見廻此方被立寄候事、  
一、夕方杉丁老人入来之事、増野文四郎より鯛一折差越候、吉田元泊妻・

大賀勇雄妻来ル、兩人催相二蕎麦切り持参之事、大津良左衛門より  
老人見廻と

蕎麦切り差越候事、

同廿三日 同

一、杉老人朝飯後尾浦迄被帰候事、本尾おゆき来ル、梅田屋  
嘉十郎妻来ル、夕方帰り候事、

同廿四日 晴天

【95頁】

一、おゆき帰須佐之事、松村周平為見廻来ル、菓子箱持参之事、

同廿五日 晴天

一、長屋ノ宇佐右衛門来ル、さざえ為土産持参之事、吉田宗一郎、大谷仙  
槌大崎

運平為見廻来ル、茶かまぼ、宗一郎、手塩十運平、銘酒式升仙吉持  
参之事、

同廿六日 曇天、夕方より雨天

一、大賀重右衛門為見廻来候事、釜屋ノ善六より為見廻小鯛折差越候事、夕方

大谷清記 松原茂一郎来ル 無間引取候事、

同廿七日 雨天

同廿八日 昼後晴れ

【96頁】

同廿九日 晴天

一、石田善十郎妻見廻と来ル 大崎運平娘萩江参り候、つづ此内大崎方参り候由ニ而善十郎妻同道ニ而来ル 為見廻菓子箱持参、味付飯 善十郎妻持参、夕方ニ つづ歸スサ之事、

同晦日 晴天

四月朔日 晴天、七ツ過キより曇天

一、金吾為見廻来ル 無間引取り候事、堀駒之助為見廻立寄り 酒吉徳持参之事、<sup>坂井</sup>境研哉より小鯛一籠到来之事、

同二日 雨天

【97頁】

同三日 晴天

一、石田善十郎妻此内来リ、杏両日三郎左衛門氣分相一付、看病手傳せしめ夫より津田屋方両日滞留、今日歸須佐之事、

同四日 晴天、夕方より雨

同五日 雨天、昼前より晴天

一、昨日石田善十郎御内用一付、石州罷越候由ニ立寄り候事、安江孫二郎方より為見廻肴一折差越候事、梅田屋之姥、中酒屋しな同道ニ而来ル しな事ハ昨年、**鉄醬契約**相調其禮心見廻肴肴重一組・酒式升すし一切リ濁<sup>濁酒力</sup>しな持参之事、

同六日 晴天

【98頁】

一、今昼後梅田屋姥、しな同道ニ而歸須佐之事、今日ハ於留守 旦那様御下り有之候由申来り候事、

同七日 晴天

同八日 晴天

一、江崎病人有之熊美<sup>能美</sup>之方手遣候處、門弟之内為代脉昨夜差越候由承り、恒左衛門方一毛兼而家内病身ニ毛有之、去春カ熊美<sup>能美</sup>之方出、其已来服薬仕候而追々気分モ宜、此度門弟被差越候付、見合廿貫候趣、又恒左衛門事ハ右門弟懇意之由旁一付、下拙處モ

【99頁】

相聞候事、

同十六日

晴天

同十七日

半晴

同十八日

晴天

恒左衛門より噂仕賃、尚又此節氣分相二付、山本文鋒・境<sup>坂井</sup>研哉見合懸り  
一付、文鋒よりも噂仕賃候而今昼時研哉・文鋒同道二而入来一付、  
診察仕賃早速帰萩之上洞庵老合容躰申入、調薬相  
成可申との事、文鋒・研哉兩人共青木熊<sup>能美</sup>美弟子同様之由二候事、

【101頁】

同九日

晴天、夕方より雨

一、昨日石川完蔵内々為見廻来ル無間引取り候事、肴一籠差

越候事、品川玄佐此邊為病用罷越候由二而見廻二立寄り候事、

同十九日

晴天

同廿日

雨天

同廿一日

晴天

同廿二日

晴天

一、小野浅右衛門方より鰻老籠為見廻到来之事、

【100頁】

同廿三日

晴天、入梅

一、橋詰おいし為見廻来ル夕方帰り候事、

同十二日

朝飯後より晴天

同十三日

晴天

同十四日

朝飯後より晴れ

一、おたか英治帰り候事、久原良三郎養母爰元江参り候由二為見廻立

寄り候事、  
砂糖一袋持参之事、

【102頁】

同廿四日

晴天

同廿五日

晴天

一、衣替近々候二付、何角用事有之、おとね事、今暮時より鳥<sup>ちよつと</sup>渡宿  
元帰り候、大谷忠太郎連れ行き呉候事、

同十五日

晴天

一、栗山久之進用事二付来ル丹下文十郎交代之事相聞候事、其外進  
退事

同廿六日 晴天

一、忠太郎歸ル 長屋之民助 おとね留守番心ニ采ル

同廿七日

一、民助事、今日差返し候事、今夜中迄二者おとね歸り候二付、暮過  
おとね歸り候事、今日仁保宗謙来り候事、一昨日

不申御殿江上使有之候由、御軍令書御持参とか申事

以後之事ハ不相分候事、おとね歸り候、治郎吉供ニ而候事、

同廿八日 晴天

【103頁】

同廿九日 晴天

五月朔日 日入頃雨

一、今日御内輪御人数御手當と大砲隊小隊下田万出張

被仰付候、尤御本隊か其儀爰元ニ而不相分候事、みしまや惣

吉近来爰元ニ居折々須佐今之用向相頼候二付、此方参り候、鰻

一籠為見廻差越候二付、受用せしめ候事、

同二日 雨天

同三日 同、夕方晴

一、教専寺住持来ル 為見廻砂糖一曲持参之事、

同四日 晴天

【104頁】

一、宿より端午二付、笹巻 柏餅等長屋之友助持せ差越候事、

同五日 晴天

同六日 同断

同七日 曇天

一、長屋のかね きせ為見廻来ル 無間歸り候事、

同八日 晴天、昼後雨

一、今日みしまや惣吉須佐参り候由二付、おとね状杉丁江分相頼候事、  
竹内普兵衛

妻地藏参詣仕候由ニ而鳥ちよつと 渡入来、直ニ歸り候事、

同九日 雨天

一、宿より何角用事二付、宇佐右衛門差越、昼後歸り候事、

【105頁】

同十日 夜中より雨

同十一日 前夜より大雨、終日雨

同十二日 前夜より引續大雨

同十三日 昼夜雨

同十四日 同断

同十五日 雨

同十六日

同十七日

晴天

一、今日帰宅之御沙汰相来候由邦衛方より内々申越候事、杉丁老人為見廻被參無間引取相成候事

波田与市も今日帰宿一付、世並屋も取込候由二而相断候事、

一、夜二入 出立二而九ツ時宿元帰着之事、  
付り 與市同道二而歸り候事、 付 江崎二而大中屋家内を始  
懇意家見送り仕候事、

【106頁】

【元】

同十八日

晴天

一、帰宅御免相成候一付、昨日須佐之方長屋之者兩人、尚荷物什器洪干

道具、皮籠等申遣、今朝より仕廻仕、大中屋よりも人差越呉、尚又

兼而懇意二参り候江崎人共も参り、昼後迄二陸荷舟便等迄仕

相濟候、江崎二而大中屋家内 安江兵左衛門 向孫治 津田屋庄平

父子 宮内五郎左衛門父子引越已来世話二相成候一付、為暇乞相招き

酒差出候、

其外大中屋番頭 室屋三郎右衛門手代半五郎江酒吞せ、三郎右衛門江烟草

三五、半五郎銀札五匁包二而遣し候、其外手傳と勝手参り候者も

酒差出、終日居候者八時々仕廻をも仕らせ候事、

付り 大中屋今子供中江と當座置土産心二菓子箱寄、おつね紅

【107頁】

乗ひん付、三角おやす命断、下女弁銀式刃遣し候事、

皆大中屋之者也、津田庄平方金菓子箱、大墨屋五郎兵衛

世倅雄平江氣遣候事、五郎兵衛江崎世並屋酒場當時

買受、甥ノ忠太郎と申者罷出酒造仕候而毎時ノ世話二相成候一付、

忠太郎をも一同二相招き、前二相見候處、酒吞せ可申と存候處、

付録(日裁登番人物等)

慶応元年10月～慶応三年5月

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
	田村利作(三原村庄屋) 市蔵 惣十郎	用向き使いを依頼 江津より須佐へ	酒
慶応元年 10月	三郎左衛門致和(本人) 大谷六郎左衛門 大谷官一郎 三谷丈七 杉丁老人 田村恒左衛門(大中屋) 石田善十郎 津田庄平 津田忠左衛門 栗山翁輔  波田與市 多祢順左衛門 宅野太郎 多祢卯市 仲井半四郎 山崎十郎左衛門	清水益田、気分相、譴責:領外居住 懇意家、倍宅依頼  清水益田家と懇意、益田家出入  善十郎弟、清水益田家出入、益田家出入 庄平養父 田村恒左衛門の縁家、譴責:遠嶋・ 年行司加判、育英館惣督役 御用人、役目附兼役、譴責:領外住居 " 譴責:遠嶋 御供頭勤役(諸生)、譴責:遠嶋 "	
	三郎左衛門壱式人 下女吉人 中間吉人	江崎行きに付き家内召し連れを許される	
	吉田富十郎 長屋の者三人 野原利助 三谷菊蔵	浦庄屋、運賃船雇立  荷物積みのため江崎へ、八ツ時頃帰須	酒飯
	石田善十郎 野原利助 野原忠五郎	荷物置所の相談 荷物一件に付き何かと世話になる	酒貳升
10/25	三郎左衛門・同家内 大庭久左衛門 丹下井家内 栗山半左衛門内・同娘 本尾官治・同内 翁輔娘・堀嘉十郎家内 石田善十郎妻 三谷丈七・大賀吉助 長屋の者 石田善十郎  津田庄平  恒左衛門・庄平・善十郎 栗山半左衛門娘おぬい 豊田平左衛門中間弥吉 下女梅	気分相、駕籠(家内歩行)で江崎へ引越、八ツ時頃着  見送り、長儀の者は水海まで 宇佐右衛門・友助(長屋の者)尾浦まで  前日より待ち受けのため江崎滞留 八ツ時久左衛門宅着、緩々休息 石田善十郎方の船で尾浦迄迎え、緩々談話 大中屋部屋の上の方着船、大中屋本家着 大中屋馳走により酒宴  三郎左衛門内心添いとして召し連れ 町百姓勘六世倅、召し連れ 江崎住人伊兵衛娘、三谷菊蔵妻の姪、近年より奉公、 召し連れ	酒飯  酒飯 酒盃  酒、夜食
10/26		座敷廻り見分、諸道具・衣類等納める 用のない物を須佐へ返す 一同座敷で酒宴	酒肴数々
10/27		朝見廻りに来る、益田家出入	肴一折
10/28	恒左衛門・同娘 庄平 吾郎左衛門世倅丈平 ノ	宮内五郎左新円方より見過の晶が届く 夕方居間こ招き酒宴	肴四種、酒

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
	廣槌 安江兵左衛門・同孫三郎	江崎住、見廻に来て料理をする 見廻に来る(御館入家のため表向きに)	
10/29	恒左衛門方番頭・郎右衛門 同手代半五郎	相対	
10/30	大庭久左衛門世倅伊三郎	見廻に来る	餅重一組 菜園物数々
	海上地(鯉湯)の利兵衛 鑪八十右衛門	立ち寄り、内輪より頼みの品持ち参る 見廻に来る	
	大谷六郎左衛門 人谷官一郎弟惣太郎 大谷五郎兵衛 大谷忠太郎 堀野唯四郎 堀野徳十郎	見廻に来る  届け 見廻に来る 届け	肴重一組、酒  あんころ餅重一組
	竹出普兵衛妻 有福吉五郎母子 須佐浦の市左衛門世倅金槌	夜中見舞いに束る 見廻に訪れる。田万仙道方止宿	肴重一組、酒肴
	恒左衛門 庄平・安江 中村屋沖蔵 大工の三吉	日々朝夕放れる、 時折見舞に訪れる 恒左衛門方出人 恒左衛門方出人	
11/1	おぬい	昨日須佐へ帰す	
11/4	丹下 恒左衛門	ミニエー銀紙人について来者、田万六郎左衛門方止宿 酒宴	酒肴
11/5	丹下 五郎兵衛 恒左衛門 庄平	同に金策協議、暮丹下帰須、丹下帰須後後孫三郎招き 酒宴 恒左衛門より参百両須佐へ、揃い次第飛脚をもって 三百両丹下方へ	酒
	お隆・長屋の民助 安江孫三郎 伊藤清九郎		
11/6	手代半五郎・お隆・長屋の 民助 堀喜十郎母 松原惣太郎	お隆帰須、半九郎と民助へ四百両持たせ丹下方へ、残り参 百両は揃い次第 見廻に訪れる 見廻に訪れる、止宿、持参品で酒宴談話	肴、野菜、餅 肴重一組。酒
11/7	惣太郎 又十郎 恒左輔門 三谷菊蔵父子	朝帰須 早朝来着、金策の件は須佐裏判受け入れず返却となり又十郎をもって断る、庄平、五郎兵衛を呼び寄せ緩々汲扱(杓交)わ 見廻に訪れる、親類方止宿	酒肴 酒言徳
11/8	梅田屋姥 三谷菊蔵父子 伊兵衛 田中の治郎吉 小室屋金治	須佐より帰る 梅田屋姥と帰須 下女梅父見廻に訪れる 見廻に訪れる 見廻に訪れる、大谷治兵衛弟、小室屋養子 恒左衛門本宅荒園入手	菜園等 吊るし柿少 吊るし柿少
11/10	大庭久左衛門	見廻に訪れる、追薪買い入れを依頼 飯料返済に付き協議	
	大谷惣太郎	昼後萩より帰り見廻に訪れる、鶴狩獵に沖へ出、薄暮頃一羽持ち帰り調理し、酒宴のところ急用のため田万へ帰る	蒲鉾
11/12		高正院一周忌の法事、遥拝	
11/13	須佐浦の重郎・母・子・孫 恒左衛門	見廻に訪れる 風気	鮑、さざえ
11/14	大谷五郎兵衛 須佐釜屋善六 山本勝蔵	届け 見舞に訪れる 薄暮頃見舞に訪れる	どじょう 鯛 一折、酒樽 鯛 一折
11/15 式日	おとね  御壱所親亀左衛門 恒左衛門  栗山おたき	翁輔渡海につき暇乞いのため中開弥吉召し連れ暁七ツ時須佐へ出立、暮に須佐より帰り留守親類内無事の報告 見廻に訪れる 入来緩談話に 一杯出したところ津田忠左衛門・同庄平も来たり小宴 見廻に訪れる	

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
	須佐町の勘蔵娘さめ 津田屋部屋 津田屋本家	見廻に訪れる 届け 届け	菜園物色々 ふかの皮 鯨赤身
11/16	紹考孝和粥  大谷惣太郎 弥吉 恒左衛門	昼後見廻に訪れ蕎麦をうち唐茶で緩々閑話、西堂寺止宿  須佐へ用事こつき立ち寄る 須佐へ帰す、日数20日で銀30目(日別八〇銭五五分宛)を克払い 昼前入来緩々閑話	蕎麦粉、酒壺 菰、菜園物色々
11/17	紹考孝和粥	暇乞いのため人來談話、昼前後おたき・さめ召し通れ帰須佐	
11/18	釜屋傳六	届け	白炭壺俵
11/19	大賀吉輔 堀嘉十郎	見舞に訪れ緩々閑話、帰須佐 見舞に訪れる、津田庄三郎方に用事あり、夜遅いため止宿	砂糖一袋
11/20	堀嘉十郎 竹内普兵衛  須佐安吉 須佐仕立屋義兵衛 大谷惣太郎 有福吉五郎 有福吉五郎百姓	朝帰須佐 鑪に用事こつきちょっと見廻に立ち寄り、直ぐ鑪へ  用事が済み帰る、た万の親類にちょっと寄る 立ち寄る 届け 届け 持参	卓、漬物桶少々の物、  酒一徳 鰻調理の分 大根 くねんぼ七ツ
11/21	  福場但馬	知行米の内10依をド田万で用意していかの伺いに裏判座より 許時が出る、大中屋へ10依を渡し取替え米を差引き残りは 追々渡すことを申し合わせる ----- 下田万神官、見廻に訪れる	  菓子一曲
11/22	安江孫二郎 口山左衛門 大中屋	下田万より飯料米10依の内5依を出す、平五郎受け取りに田万 へ赴くよう依頼 先の挨拶の礼として入来 用事のためこの辺り通路に付き見廻に立ち寄る	  こぶ餅一重
11/23	田万二ん屋 恒左衛門 波田與市	届け 裾分けとして届け 引越の由手紙を以て見廻労申し越す	菜園物色々 鳴調理の分
11/24	山根藤之助母 近藤宗兵衛 米倉嘉平 金崎屋利兵衛 大中屋	見舞に訪れ緩々談話、八ツ時帰る 嘉市を連れて入来 見廻に訪れる、杉丁知行所 夜中入来。明日帰須するが用事はないかとのこと 届け	酒一徳、鮑壺籠  大根  餅少し
11/25	太津良左兵衛妻 波田與市	入来、下田万こん屋 夜中入来、緩々談話	餅、11取
11/26	下田万こん屋 大谷五郎兵衛妻  竹内普兵衛妻  長屋の佐助	届け 入来  見廻に訪れ緩々談話、夜中帰る、鑪へ用事のため船で行く  止宿、翌日帰須	焼付木 あんころ、白餅 二重 饅頭三重、11 取
11/27	大谷忠太郎 林半七	昨日御霊社遷宮、大隊催し田万より農兵須佐へ立ち寄る 山口へ帰る	
11/28	大谷久七 津田屋庄平 須佐浦の金槌 恒左衛門 安江兵左衛門 同孫二郎 大谷六郎左衛門 大谷忠太郎	見廻に訪れ閑話 届け 五ツ時見舞に訪れる  須佐裏判所へ呼び出し、恒左衛門へ宿への書状を頼む  夜中入来閑話 届け	菓子箱 兎・雉調推の分 小網一籠   餅二重
11/29	波田與市 恒左衛門 大谷官一郎 海蔵庵	朝入来、緩々閑話 須佐より帰る、夜中入来、緩々閑話 夕方入来、土産 田万湊の伊八妻が須佐よりの帰使に持ち寄る	蒲鉾五枚 ごもく飯二重

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
11/30	野原忠五郎 野村勘四郎 三谷丈七  本尾官治 俣賀昌左衛門 大谷六郎左衛門	見廻に訪れる  入来  内々見廻のため、立ち寄る 御上江津へ行歩 妙義寺歎願下書披見	兎一羽 蒟蒻、酒一升 銘酒一升、こう せん
12/1	野原利介 人谷惣太郎 紹孝寺旭洲	見廻こ訪れる。丈ヒ同道して昼前に帰る 夜中入来 入来	肴一籠  かぶ、蒟蒻
12/2	健一郎  弥吉 梅田家	弥吉供に入来  旭洲と帰須 届け	とねぼう、かさめ 上酒 小鯛二、焼餅 漬物大根
12/3	健一郎 大谷惣太郎 福場丹波 安江藤兵衛 角屋の花・安吉	滞留 昼前鵜打ちに出かけ浪高く鵜無し 届け 見廻に訪れる 見廻に訪れる	雉一羽  蒟蒻
12/4	大谷惣太郎	持参	鵜一羽
12/5	健一郎 大谷惣太郎 介左衛門 波田輿市	昼後、安吉・同人母と同日婦須、惣太郎狩猟の鵜を持ち締る 夜中入来 見廻に訪れる 夜中入来、緩々閑話	鮑三、唐いも
12/6	廣槌 長屋の卯佐衛門	江崎人、写本させる 本来、留守よりの書状等持参	堅炭少し
12/7	おたか 石田善十郎妻 長屋の豊治 大崎屋  おとね・下女梅 恒左衛門 上酒場	一同見廻に訪れる  栗山翁輔渡海の様子に付き、おとねは下女梅を連れ須佐へ、 少し遅れて恒左衛門も 届け	金ぎんじ一曲、 鮑二 鮑二、こうせん 一袋 砂糖小曲  漬物色々
12/8	大谷六郎左衛門  恒左衛門 おとね 波田輿市・恒左衛門	届け  昼時頃、栗山翁輔見送りを済ませ帰宿 暮時頃、帰宿 入来	蒲鉾五、漬物 色々
12/9	廣槌  石川七左衛門 石橋六郎兵衛	写本残りを戴く 須佐で大隊あり 野頭村畔頭、見廻に訪れる 高山村畔頭、見廻に訪れる	小鯛一籠催相
12/10	内田権左衛門・同人娘喜勢 恒左衛門内  野頭村の田村利兵衛  安江兵左衛門 大庭左衛門	入来 初めて入来、相対 恒左衛門と一瓢携え裏山を廻り見る 栗山平左衛門内おとみ召し連れ見廻こ訪れる  届け 入来、四境の役に際して万一の時の心遣いを依頼	小鯛二  鮑一籠 肴重一組、あん ころ たばこ等
12/11	栗山半左衛門・同久蔵 浦庄屋吉田富士郎妻 波田輿市・大谷五郎兵衛	昼頃見廻に訪れる、夕方帰宿、久蔵は滞留 津田屋方へ行き、後入来、少し談じ帰須、届け 夜入来、五郎兵衛の心遣いで段々馳走になる、後に聞くと輿市 の心遣い、九ツ前帰る	式肴一折 小重
12/12	大谷惣太郎 鯉淵の増野文吉	生雲より昨夜帰り昼後入来、生雲の様子を聞く 見廻に訪れる、直ぐ様田万へ	小鴨一羽 蕎麦切四、重物
12/13	増野文吉 組の善槌  下女梅身元 波田輿市 品川繁吾	田万より帰りがけ立ち寄る、久之進同道 見廻こ訪れる  届け 夜中入来 針立ての序でに見廻に訪れる	堅炭一俵、大根 等 おばあ一

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
12/14	豊田平左衛門父子 平田七右衛門 組の善植 戸倉三郎兵衛	見廻に訪れる  帰須 六十一歳の祝いの物、届け 此の方よりも祝いとして着代一封届ける	兎一羽  鯛折、酒一徳 小祝一重
12/15	安江藤右衛門  品川繁吾 大谷官一郎 津田庄平 恒左衛門	庄屋、届け 昼後、恒左衛門居所へ初めて見舞いに訪れる 帰須 須佐へ行くので立ち寄る、丹下への書状を依頼 夜中年忘れとして緩々相談、廣植召し連れ 番頭三郎右衛門を呼ぶ	鯛一折  酒肴 白魚初物少々
12/16	弥三右衛門	鑪より親等、届け 夜、恒左衛門・庄三郎を招き年忘れ、番頭三郎右衛門・廣植も呼ぶ、嘉市来る、届け	堅炭一俵、炭消肴類
12/17	晴久郎 安江藤右衛門父藤兵衛	届け 見廻こ訪れる、八十二歳堅固こも耳は遠い	小菓子箱
12/18	金吾 長屋の友助	見廻こ訪れる、昼後帰宿 須佐より来る 節分につき恒左衛門方より鬼打豆・だら錆を貰う	酒一徳切封 餅其の外
12/19	吉野利吉 石田善十郎 津田屋庄平・石田善十郎	見舞に訪れる、歳暮 昼後入来、大崎運平妻よりの歳暮持参 夜中入来、緩々閑話	こんぶ 砂糖一曲 軽き酒肴
12/20	堀助四郎 丹下父子 地下打廻り小左衛門	見舞に訪れる 夕方見廻に訪れる 入来	玉子七  酒一徳
12/21	丹下父子 石田善十郎 大庭久左衛門	一同に帰須 届け	薪少、ずり一羽
12/22	堀嘉十郎母 福田屋多吉 梅田屋  岡部次郎兵衛	入来  届け  見廻に訪れる、時勢あれこれ緩々閑話にて聞く	蕎麦切二重、菜園物色々 小鯛唐ずし一重 たわらこ一重 酒一徳
12/23	大谷忠太郎 大賀宇吉 上杉園右衛門 安吉	入来、因州辺りから石州辺りの時勢緩々聞く  見廻こ訪れる 須佐より来る 大忠屋餅鴉に呼ばれる	兎一羽 塩物、醤油等
12/24	境研哉 大瀧寺確翁 梅田屋 大谷岩尾	招いて診察を受け風邪薬を貰う 入来 届け 入来	金米糖一曲 大根、漬物等
12/25	おいし 太田丹宮姉娘 治郎吉 小五郎 宅野駒之介 大谷丈右衛門	伊兵衛召し連れ入来、土産 丹宮より届け 入来、夕方帰須佐  入来	茶、干大根 初郭公茶一袋
12/26	大谷丈右衛門 大谷忠太郎	須佐に帰りがけ入来	
12/27	長屋の嘉七 梅田屋 蕎麦屋多吉 大谷五郎兵衛  大谷六郎左衛門	入来、橋詰より届け 届け 届け  たき本所望に嘉七を遣いに出す	須佐焼鉢一蕪、 赤漬大根 大根、蓮根 川瀬少々、北国の漬物大根沢
12/28	嘉七 中村屋伸蔵 大草祐純母 大庭久左衛門 仙道孫介 海士他の彦兵衛	帰須佐 歳暮届け 見廻に訪れる、 歳暮届け 届け 届け	人参、吊し柿 吊し柿、小鳥のり 銘酒二升 干鯛

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
	釜屋傳六 田万こん屋	届け 届け	酒一徳 人参、くねほ、 大根等
	仕立屋の儀兵衛 海土地の利兵衛	石州より帰りがけ立ち寄る 下田万に行きがけ立ち寄る	
12/29	本尾官治  津田尾庄平  津田尾部屋忠左衛門 山根屋清太郎 岩見屋五郎右衛門 ひで 恒左衛門	見廻に人をよこす、 おとねへびん付、襟地。届ける 歳暮届け  歳暮届け 届け 歳暮届け 持参 歳暮届け	海苔、牛蒡、 人参 若水桶、数の子 中汲酒一升、橙 のり 葛一袋、蕎麦切り 鰯 蕎麦切り一重 小鯛、橙一籠 挽茶、巻鰯等
慶応元 年元旦 晴	恒左衛門	祝詞のため入来、数の子で酒だし初め、番頭・千代追々入来	
1/2 晴	恒左衛門家内 長屋の民助	祝詞のため入来 入来、留守より届け	蛤一簣
1/3 晴	長屋の宇佐右衛門 浦の七兵衛 三谷菊蔵	入来 届け 入来 夕方恒左衛門卓方へ呼ばれる、後弁天杜へ忍びで参詣	鯛一折  肴四・五種、酒、 切りすし、吸物
1/4 晴	石橋善之助	届け 西堂寺へ参詣	白酒一徳
1/5 晴	内田和平・友助・ 嘉七・佐助 大浦儀平 安江兵左衛門・同孫治郎 伊藤晴九郎・津田庄平 中村屋市松・田万こん屋 大津屋良左衛門 海土地の利兵衛 大谷岩尾内 境研哉 大谷惣太郎	年始のため入来  入来 年礼のため入来、兵左衛門・孫治・清九郎・庄平龜出し初め、 良左衛門・利兵衛・市松勝手に酒を出す  夜中見廻のため入来、届け(輿市母) 招き刺絡する 入来	のり一包
1/6 雨	仁保宗謙 紹孝寺旭洲 大谷官一郎 大谷六郎左衛門 平島の茂三郎	病用のため参りちよっと立ち寄る 入来 届け 届け 入来、留守より薪を頼まれ積み来る、鯛子の者に酒を出す 夜家内一同で輿市方へ、見廻行く、取肴吸物にて酒、香の物にて茶漬が出る	酒三升 牛蒡、黒豆 肴一折
1/7 晴	鈴川屋喜兵衛 番頭三郎右衛門 横屋丁栗山 大谷五郎兵衛抱えの上酒屋 吉田源蔵夫婦	入来 届け 遣いをよこす、届け 届け 入来	肴一籠、人根 めばる一籠 のり少し 葱、握りずし一重 鰯一本、飽
1/8 雨	田村利作 恒左衛門家内	見廻に訪れる 招き酒飯を出す、番頭三郎右衛門も招く	みりん酒一徳
1/9 曇	堀野唯四郎	夜入束、囲碁	
1/10 晴・雨	邦衛 堀嘉十郎	入来、夜中輿市・津田屋方へ見廻 入来	
1/11 雨	邦衛 堀嘉十郎	恒左衛門方へ家内も呼ばれる 恒左衛門方へ呼ばれる、肴代一封持参 恒左衛門方へ呼ばれる 津田庄三郎より邦衛へ銘酒二升届く	銀八匁
1/12 雨・晴	邦衛・堀嘉十郎	朝飯後、帰須佐	

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
1/13 晴・雨	田万鍛冶屋	届け	菜園
1/14 半晴			
1/15 晴	水海の茂八 後付の彦左衛門世倅治兵衛 浦の七兵衛 平鳴の六右衛門 吉田富十郎・内田・三四郎 大庭久左衛門・石田栄助	見廻に訪れる 入来 入来 入来 入来 入来、石田預かり	のり のり 酒肴 酒肴代一封宛 酒一樽
1/16 雨	山本庄三郎 吉田富十郎・内田三四郎  津田庄平 大中屋恒左衛門 安江兵左衛門 安江孫二郎	入来 夕飯後入来、届け  夕飯後参りあわせ入来	鯛一折、酒二升 茶、鯛一、生キ物
1/17 晴・風	三四郎・庄三郎・富十郎 増野文吉・角屋伊三郎 本尾官治	梅田屋止宿、八ツ時入来、帰須佐 入来 夜中入来、大嶋より書状持参	
1/18 天気	本尾官治 八百屋の治兵衛 大崎運平妻  田万中村直左衛門世倅妻 内田壮太郎 杉丁老人三人・克己  三谷丈七 大谷吉助 波田輿市	朝六ツ時婦須佐 入来 入来  入来、妻実父より吊し柿届く 見廻に訪れる。 入来、夜中大谷五郎兵衛より杉丁に人鯛が届く  入来 入来 夜中入来	砂糖一曲 肴一籠、すし一切 濁酒二升 のり  酒一升、小鯛一籠、菜園物等 酒一樽 小鯛一籠
1/19 雨	恒左衛門	杉丁招かれ同道する、緩々相談、軽き酒飯の振る舞あり	
1/20	杉丁	滞留、薄暮より大谷五郎兵衛酒場へ一同に呼ばれる、色々酒飯の馳走	
1/21 雨	杉丁 宅野太郎内 平嶋の初五郎	朝帰須佐、大尾まで船 入来 届け	くねほ、菜園物 肴一籠
1/22 雨	長屋の友輔 松井九郎左衛門	留守より醤油を持たせ来る 田万出役に立ち寄る	醤油
1/23 曇	戸倉三郎兵衛・竹田普兵衛  浦の重五郎父子  海上地の吉兵衛妻	入来 杉丁より醤油を持たせ来る 入来 夜津田屋庄平に呼ばれる、色々馳走、恒左衛門・輿市同席 夕方見廻に訪れる	砂糖一曲宛 醤油
1/24 天気	宅野家内 須佐浦西の市左衛門 栗山内蔵太 松原惣太郎 井上亀槌	朝飯後、帰須佐 入来  入来、宿より届け	めのは(ワカメ) のり
1/25 晴	おたか 長屋の権左衛門妻・司人姫 組の三右衛門 知行所豊田平左衛門	入来 入来 入来 入来	
1/26 晴	野原忠五郎妻 後付の喜左衛門妻 野原利助妻 おたか 恒左衛門	入来  大中屋へ行く 直に三郎左衛門婦人を招きに来る 恒左衛門方にて軽い酒飯の馳走あり	吊し柿 飽一籠 のり
1/27 晴		灸をすえる	

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
1/28 晴	おたか 口口屋の市郎左衛門  津守復兵衛	花召し連れ帰須佐、城市種治同道 見廻に訪れる 江崎農兵高嶋流稽古Jを始める 古部より三人参られるとのこと 見廻に訪れる	山鳥一羽  菓子箱
1/29 晴	須佐浦の金槌・同の吉蔵 津守政蔵・石橋六郎兵衛 山本昌三郎	入来 入来 届け	小鯛三宛 百疋祝儀 雉子
1/30 天気	大浦の九左衛門  鈴尾駒之進	入来、囲碁、薪を廻してくれる 留守より居へ風呂が届く 八ツ時頃ここを通行、昨夜上小川上野泊、今日佛坂見分、こ こで昼、今夜須佐泊	めぼる
2/1 晴	松原善之丞 釜屋の善六 廣槌	入来、又十郎への書状を依頼 入来 入来	肴代百疋祝儀 小鯛一折
2/2 後雨		家内並びに人中屋娘同道して裏山へ登る、教専寺参詣のところ 俄に雨、やむをえず津田方へ立ち寄る、昼・夕飯茶漬けにして 出る、取肴鉢にしたし位にて酒も出る	
2/3 晴	岩本官一郎 橋詰長屋の八右衛門 高津伊太郎	入来 入来、丹下の書状持参 入来	肴代一封  玉子
2/4 雨	海蔵庵部屋	夕方入来、土産	飽一龍
2/5 雨	田村亀市 大中屋	見廻に訪れる 届け	柿一籠 初市検餅
2/6 晴・曇	海蔵庵部屋 増野瀧左衛門  地下打廻りの小左衛門 大蘆寺・西堂寺和尚	朝飯後帰須佐、供は二人 鈴野川庄屋、見廻こ訊れる  入来 入来	酒一樽、山鳥一 羽、わさび
2/7 雨			
2/8 天気・ 雨	三谷伊兵衛	入来 大谷五郎兵衛船へ輿市・同家内・大中屋妻同道して行く	さざえ、湯葉
2/9 雪・雨			
2/11 晴・雪	竹内普兵衛	鑪へ用事につき立ち寄る	
2/12 晴・風	かせ 梅田屋	橋詰より来る、帰る時に大中屋より頼みの染物を須佐まで送る 届け	漬物
2/13 快晴	大谷五郎兵衛妹おいね	夜入来、緩々談話	
2/14 雨	鑪世話人弥三石衛門 杉丁のおちせ  石田善十郎妻 } 三谷丈七姉嬢 }	恒左街門に誘われ西堂寺へ参詣、鑪遠見のところ雨となり、鍾 木小屋に揚がる 懇意の者、勤場にて酒を飲み緩々相談、夜帰る 夕方入来、杉丁届け  同道して入来、間もなく帰須佐	菓子箱、菜園物 等 鮑、菜園等 砂糖一曲
2/15 雨	横屋丁栗山・宅野 下三原の作右衛門	届け 見舞に訪れる	菜園物色々 鮎
2/16 雨	おちせ 大谷五郎兵衛	昼後、下女梅を召し連れ帰須佐 酒場よりおちせが来たので肴重一組と酒一樽が届く	
2/17	山根丁栗山おちせ	見舞に訪れる、下女梅も帰る	
2/18 天気	栗山おちせ 宮内次右衛門 三谷丈七	昼後帰須佐 見舞に訪れる 用事に付き呼び寄せ夕方入来、夜中口二郎同心して帰須佐	銘酒二升

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
2/18 天気	横丁栗山  大津屋良右衛門妻	嶋へ送る着の買い取り依頼有り、小さい平そを送る、代銀二十目のところ八〇銭三十目位なので過銭を着共々返す、嶋への書状、四封一封にして(にの方二通、波田方一通、恒左衛門一通)内蔵太へ依頼 夜中人来	焼餅一重、栗煮物、煮豆等
2/20 大風雨			
2/21 雨	三谷丈七	夕方入来、夜中帰須佐	
2/22 晴・寒風	岩田市郎兵衛 紹孝寺旭洲 宮内傳五右衛門世倅 紹孝寺鉄牛	同道して見廻に訪れる  見廻に訪れる 西堂寺より見廻に訪れる	金百疋、菓子箱 菓子箱 菓子箱 煉羊かん
2/23 晴・雨	堀嘉十郎母・孫 石田善十郎 西堂寺和尚	入来 入来、昨日旦那様萩より御帰座のことを聞く 入来、緩閑談 夜、家内・興市同道して西堂寺へ参詣、茶並びに夜食がでる、緩々談話	すし、煎赤漬
2/24 雨	健一郎	入来、土産	烟草二玉
2/25 雨	境研哉	夜中入来	
2/26 天気	健一郎 堀勝三郎・同祖母 後付の喜左衛門	昼後、一同こ帰須佐 田方へ御用に付きちよっと立ち寄る	
2/27 晴	大谷五郎兵衛 後付の喜左衛門	須佐に行くため立ち寄る、帰りに内輪のことを聞かせに立ち寄る 帰須佐のため立ち寄る	
2/28 曇	大谷五郎兵衛妻 全柳寺和尚	入来 見廻に訪れる	砂糖一袋
2/29 雨	大谷五郎兵衛 西堂寺和尚	須佐に行くため用事はないかと立ち寄る 夕方入来、緩々閑話	
3/1 雨			
3/2 晴	石田善十郎  大谷五郎兵衛	石州探索から帰り昨夜津田方止宿、今日昼前入来、石州・藝州辺りの様子、長征・藝陽の模様を披見、邦衛方へ写しを送る 明日須佐に行くので用事はないかと来る	
3/3 晴	吉野利吉 小野浅右衛門 大谷惣二郎 堀駒之助母 横田平治	入来 入来、朝届け 下関より帰り入来、萩で取る 夜見廻に訪れる 夜中見廻に訪れる	干大根、着代 孟宗竹の子 孟宗竹の子 鯛一折二尾
3/4 晴	大中屋恒左衛門 番頭三郎右衛門 仙道孫助妻	須佐に行くため留守への伝言と邦衛への書状を依頼する 届け 夜中人来	孟宗竹の子 わらび、菜園物
3/5 晴	戸倉二郎兵衛妻 仙道孫助妻	入来、土産、夕方帰須佐 夕方帰須佐	菓子箱
3/6 晴	吉田源蔵 石田善十郎 津田屋庄平	入来、石田善十郎同道 入来、津田屋庄平同道	祝一重、重一組、酒
3/7 晴	吉田源蔵・石田善十郎 恒左衛門 玉屋長兵衛	帰須佐のため昼前立ち寄る 須佐より帰る、須佐の様子を聞く 入来	
3/8 雨			
3/9 曇	吾介妻 おたか	気分相に付き仁保宗謙を招く 橋詰より見廻に来る、無人のため留置く 昼後見廻に訪れる	
3/10 晴	海蔵庵お綾	見廻に訪れる	
3/11 後雨	お綾・おたか 堀嘉十郎 福場丹波	同道して帰須佐 見廻に訪れる、即日昼帰須佐 加持のため入来	

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
3/12 天気	橋詰姉様	見廻に訪れる	
3/13 同	橋詰姉様	昼後帰須佐	
3/14 晴			
3/15 同	浅村末吉 橋詰お石・栗山おちせ 三谷伊兵衛 吾介妻	見廻に訪れる 三郎左衛門気分相に付き見廻に訪れる、おちせ夕方帰る 入来 夕方帰す 山根丁栗山より鯉、祈禱物届く	鯉、折禱物
3/16 同	松井亀之進世倅直衛門  三好屋のちせ・長屋の花 石田善十郎 おいし	見廻に訪れる  入来 見廻に訪れる 帰須佐	酒二升、玉子、 野菜物
3/17 同	藤井徳二郎、三原松岡五郎 三谷菊蔵妻	入来 入来	
3/18 同	打廻りの忠之承 梅田屋の姥 大谷丸兵衛家内の者 御駕籠多七 呉服屋の勝蔵	二の辺り御用に付き見舞のため立ち寄る 見廻に訪れる 見廻に訪れる 見舞に訪れる 届け	するめ 色々土産 飽、色々 小鯛一折 鯛一
3/19 同	安江兵左衛門 梅田屋の姥・三谷伊兵衛	届け 帰須佐	鯛一折
3/20 雨	安江孫次部母 大谷六郎左衛門妻	見廻に訪れる 夜見廻に訪れる	
3/21 晴	岡惣右衛門 紹孝寺隠居 杉丁老人 増野文四郎 吉田元泊妻・大賀勇雄妻 人津良左衛門	この辺りに参られたので見廻に立ち寄られる 入来 夕方入来 届け 入来、再入催し相 老人見廻として、届け	鯛一折 蕎麦切り 蕎麦切り
3/23 同	杉丁老人 本場おゆき 梅田屋嘉十郎妻	朝飯後、尾浦まで帰る 入来 入来	
3/24 晴	本尾おゆき 松村周平	帰須佐 見廻に訪れる	菓子箱
3/25 晴	長屋の宇佐右衛門 吉田宗一郎 大谷仙槌 人崎運平	入来、土産  見廻に訪れる	さざえ 茶、蒲鉾 銘柄二升 手塩十
3/26 曇・雨	大賀重右衛門 釜屋の善六 大谷清記・松原茂一郎	見廻に訪れる 届け 夕方入来	小鯛
3/27 雨			
3/28 後雨			
3/29 晴	石田善十郎妻 人崎運平娘 つう	見廻に訪れる 萩へ 大崎ガへ参り善十郎室岡道にて見解に訪れる、夕方帰須佐	味付飯 菓子箱
3/30 晴			
4/1 晴・曇	金吾 堀駒之助 境研哉	見廻に訪れる 見廻に訪れる 届け	酒一徳 小鯛一籠
4/2 雨			
4/3 晴	石田善十郎妻	一兩日三郎左衛門気分相に付き看病手伝い、両日津田屋方滞留、帰須佐	
4/4 晴・雨	石田善十郎	石州への御用に付き立ち寄る	

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
4/5 雨・晴	安江孫二郎 梅田屋の姥 中酒屋しな	見廻として、届け 同道して入来 鉄醬契約の礼を見廻勞	肴一折  肴重一組、酒二 升、すし一切 り、濁
4/6 晴	梅田屋の姥・しな	昼後、同道にて帰須佐 旦那様がお下りり(どこかへ)の知らせを受ける	
4/7 晴	石川完蔵内	見廻に訪れる	肴一籠
4/8 晴	青木能美門弟 山本文銚・境研哉	代詠として江崎へ来る 同道にて入来 恒左衛門と文銚の世話により診察を受ける	
4/9 晴・雨	品川玄佐	病用でこめ辺りに来たので見廻に立ち寄る	
4/10 天気・雨			
4/11 晴・雨	尾浦大庭久左衛門 おたか・英治	届け 入来	
4/12 後晴			
4/13 晴			
4/14 後晴	おたか・英治 久原良一郎養母	帰る この辺りへ来たので見廻に立ち寄る	砂糖一袋
4/15 後晴	栗山久之進	用事こ付き人來	
4/16 晴			
4/17 半晴			
4/18 晴		大井周鷹寺へ大嶋への書状を依頼する	
4/19 晴			
4/20 雨			
4/21 晴			
4/22 晴	小野浅右衛門	見廻として届け	鰻一籠
4/23 晴	橋詰おいし	入梅、見廻に訪れる	
4/24 晴			
4/25 晴	おとね	暮時、大谷忠太郎に連れて貰い須件へ帰る 須佐御殿へ上使有り、御軍令書持参とか申すこと	
4/26 晴	入谷忠太郎 おとね・長屋の民助	須件より帰る 留守番に来る	
4/27	民助 仁保宗謙 おとね	須佐へ帰す 入来 治郎吉供に帰須佐	
4/28 晴			
4/29 晴			
5/1 雨	みしまや惣吉	大砲隊小隊下田万へ出張 見廻として届け	鰻一籠
5/2 雨			
5/3 雨・晴	教専守住持	入来	砂糖一曲
5/4 晴	長屋の友助	須佐より持たせ来る	笹巻、柏餅等

日時	人物	内容・出来事	飲食物等
5/5 晴			
5/6 同			
5/7 曇	長尾のかね・きせ	見廻に訪れる	
5/8 晴・雨	みしまや惣吉 竹内普兵衛妻	おとねと杉丁への書状を依頼する 地蔵参詣に付きちよつと入来	
5/9 雨	宇佐石衛門	須佐より来る	
5/10 夜雨			
5/11 大雨			
5/12 大雨			
5/13 雨			
5/14 同			
5/15 雨			
5/16			
5/17 晴	杉下老人	帰宅の御沙汰、邦衛よりあり 見廻に訪れる	
5/18 晴	大屋家内 安江兵左衛門・同孫二郎 津田屋庄平父子 宮内五郎左衛門父子 大屋家番頭 室屋三郎右衛門手代半五郎	朝より片づけ、長屋の兩人、人中屋よりも人、懇意の江崎人共、 昼後までに陸荷・船便等片づけ終わる 引越以来世話になる、暇乞いのため招き酒を出す  酒を吞ませ三郎右衛門へ烟草三玉、半五郎へ銀札五匁包にし て渡す 手伝の者へ酒を出す 大屋子供中へ置き土産に菓子箱 おつねへ紅乗びん付 三角おやすへ同断 下女へ札銀二匁巻 津田庄方へ菓子箱 大屋五郎兵衛世倅雄平へ気遣い 忠太郎を招くが世並屋も取り込みのため断られる 夜明立 九ツ時須佐宿元着 波田興市同道にて帰る 大屋家内を始め懇意家見送り	